「龍がくれたもの」

ミヤシタ　ケンサク

【主要登場人物】

○鳴海　蒼平（２４）
菱崎會・３次団体
桐生組所属の
無鉄砲なヤクザ

○鹿賀　州司（４１）
菱崎會・桐生組　若頭

○東　文人（２５）
中古車屋
桐生組が差し押さえで
手に入れた
車を捌いている

○赤城　弘明（４２）

○犬山　猫（４０）

○金子　信子（４８）

銃の売人

○桐生　源三（５９）

菱崎會・３次団体

桐生組　組長

○岡崎　龍二（３５）

菱崎會・３次団体

桐生組所属

昔気質の武闘派ヤクザで

蒼平の兄貴分

S1　黒画面

T・P『暴力団排除条例が
施行され数年』

男のまくしたてる
怒号がフェードイン。

男の声「待てコラあああっ！！」

S2　港　倉庫街（夜）

夜空に銃声が響く。
黒スーツにノータイ
白シャツ姿の男
＝鳴海蒼平が恐怖に
顔を慄かせる。
膝をつく右太腿からは
鮮血が迸っている。
蒼平の目の前、
数メートル先に

濃紺のツナギ姿の男が
リボルバーを
手に立っている。
ツナギ①「おい、こっちだあっ！！」
背後をこなし、
仲間を呼ぶツナギ①。
ツナギ①「もう1人はどこ逃げた！？
言え、コラあッ！？」
蒼　平「・・・・今頃、サウナで
汗かいてキンキンに
冷えたビール
飲んでんじゃねえかな（笑）」
忌々しげに
唾を吐くツナギ。
ツナギ①「イキがりやがって、
まずはてめえだ！
今度は外さねえぞ！」
ツナギ①がリボルバーの
引き金に掛けた指に
力を込める。

その刹那、蒼平が
投げつけたガラケーが
ツナギ①の顔面にヒット。
激しい轟音。
それが止まない内に
蒼平が足の痛みを堪え
ツナギ①の懐に
飛び込むと、
もたれ掛かる様に
胴タックルで倒す。

ツナギ①「ぐはっ！」

蒼　平「ぐおおおっ！」

ツナギ①に馬乗りに
なる蒼平。
握り締めた拳を相手の
喉仏に叩き込む。

ツナギ①「ぐへえっ！！」

吐血したツナギ①が
両手で喉を押さえ
ジタバタ暴れ悶える。

蒼　平「はあ、はあ・・・・」

立ち上がり、ツナギ①の
頭を蹴とばす蒼平。
足元のリボルバーに
手を伸ばすと、
背後にツナギ②が
現れる。

蒼　平「（振り返り）！！」

蒼平が反射的に
重心を右にズラす。
その刹那、頭頂部を
目掛け振り下ろされた
ツナギ②の鉄パイプが
左の肩口を直撃する。

蒼　平「がああぁっ！」

激痛に叫び、
膝をつく蒼平。

ツナギ②「ヒャッホ〜！死ねや！！」

再び鉄パイプを
振り上げるツナギ②。

蒼　平「！！」

死を覚悟する蒼平。
と、エンジン音が
響くや、ツナギ②の
身体が激しい衝撃音と
共に真横に弾け飛ぶ。

蒼　平「！？」

蒼平の目の前で
急停車するセダン。
窓の開いた運転席から
蒼平と同じいで立ちの
男＝岡崎龍二が叫ぶ。

龍　二「蒼平！乗れ！！」

蒼　平「あ、兄貴！」

後部ドアを開け、
セダンに飛び込む蒼平。
タイヤから白煙を上げ、
セダンが急発進する。
フロントガラスの向こう、
数人のツナギが現れ

セダンの進路を塞ぐ。

龍　二「（蒼平に）伏せろ！」

龍二も頭を下げる。

ツナギたちが一斉に

銃弾を放つ。

セダンはそれに構わず

ツナギたち目掛けて

突っ込む。

ツナギたち「！！」

ギリギリで左右に

飛び退くツナギたち。

セダンはその間を

突き抜けていく。

ツナギ③「逃げてんじゃねえぞ、

クソがあっ！！」

遠くなるセダンの尻

目掛けて乱射する

ツナギたち。

S3　夜の道

弾痕だらけ、ボロボロの
セダンが走る。

S4　セダン　車内

ハンドルを握る龍二が
後ろを見やる。

龍　二「足、撃たれたのか！？」

蒼　平「カ、カスった
だけっすよ・・・・ていうか、
肩が痛えっす」

後部座席、横になり
苦痛に呻く蒼平の
身体は震えている。

蒼　平「あ、あいつら何モン
なんすか！？いきなり
襲ってきやがって！！」

龍　二「梶本（組）の連中かもな」

蒼　平「？梶本って、この前の事

バレる訳ないじゃないすか！！」

龍　二「バレたってことだろ」

蒼　平「な、なんですか！？」

龍　二「俺が知るか」

蒼　平「とにかく応援頼みましょうよ。オヤジ（組長）に助けてー」

龍　二「（遮り）携帯は奴らの顔面にぶん投げちまった。お前は？」

蒼　平「・・・・同じっす」

龍　二「（笑って）」

タイトル「龍がくれたもの」

S5　路地裏（昼）　＊回想

TP：数週間前

『バキッ！』。

組員①「ぐあああああっ！」

頭から血を流し、

突っ伏す梶本組組員①。
ハンカチで顔半分
隠した蒼平が
バットをぶん回す。

蒼　平「おらああっ！」

複数の組員を相手に
大立ち回りの蒼平。
その傍ら、蒼平同様に
顔半分隠した龍二が
幹部の背を壁に
叩きつける。

幹　部「て、てめえらっ！ウチが
梶本（組）だと知って
やってんだろうな！？
ああっ！！？？いきなり、
仕掛けてきやがって！
どこのモンだコラあっ！」

幹部の喉仏に拳を
叩き込む龍二。

幹　部「げえ、ふっ！ふっっ！！」

空気を求める魚の様に
口をパクパクさせ
尻もちをつくと
ジタバタ見悶える幹部。

蒼　平「終わりました！」
蒼平の向こう、
組員たちがノビている。
龍二が黒のリムジンに
近づくと後部ドアを開け、
黒いケースを取り出す。

幹　部「て、てめ、え・・・・・
それ、は」
息も絶え絶えで
言葉を振り絞る幹部。

龍　二「（シノギの）あがりが
入ってんだろ？知ってるよ」

幹　部「くっそがあああっ！」
蒼平が運転するセダンが
龍二の脇で停車する。
龍二が乗り込むと

急発進する。

S6　道　＊回想　続き

セダンが走る。

S7　走るセダン　車内　＊回想　続き

ハンドルを握る蒼平が
顔のハンカチを外す。
隣で同様にハンカチを
外した龍二に目をやる。

蒼　平「やりましたね、兄貴」

龍　二「まあな」

×　×　×

信号が赤になる。
停車するセダン。

蒼　平「腹減ってないすか？

何か食ってきます？」

龍二は答えず前方を
見ている。

蒼　平「兄貴？」

蒼平が龍二の視線を
追うとフロントガラスの
向こう、青空に特徴的な
雲が見える。

蒼　平「なんかあの雲、変わった
形してますね」

龍　二「ありゃ、龍神雲ていうんだ」

蒼　平「龍神雲？」

目を凝らす蒼平。

蒼　平「確かに龍っぽく見えるっすね」

龍　二「あの雲を見ると幸せが
訪れる前兆なんだとよ」

思わず吹き出す蒼平。

龍　二「何、笑ってんだよ？」

蒼　平「あ、すんません！」

龍　二「らしくねえって

言いてえんだろ？」

蒼　平「いや・・・・」

龍　二「別れた女房に聞いたんだよ」

蒼　平「へえ。兄貴に縁のある

雲なんすね」

龍　二「あ？」

蒼　平「龍二。兄貴の名前にも

龍の文字入ってるじゃないすか」

龍　二「（笑）じゃあ、俺も幸せに

なれるって事だな」

蒼　平「（笑）」

改めて空を見上げる2人。

だが、龍神雲は

いつの間にか消えている。

蒼　平「・・・・消えちまいましたね」

龍　二「・・・・だな」

不機嫌な龍二。

蒼　平「・・・・ま、まあ、また

見えますよ」

S8　蒲田　工場街　中古車屋　＊現在

夜の帳にクラクションが
派手に響く。
やがてプレハブ事務所の
灯りが点き、金髪＆
作業着姿の男＝東　文人
が怒りの形相で出てくる。

東「うるっせえよクソが！
今日はもう営業終了
してんだよバカ野郎！
ぶっ殺すぞ！！」

乱暴な足取りでセダンに
近づく東の足が
急停止する。
その視線は、
弾痕だらけの
セダンの車体から
運転席の龍二に
向けられる。

東「お、岡崎さん！」
運転席に駆け寄ると
腰を深く折り、
頭を下げる東。
東「ご苦労様です！
ど、どうしたんすか？
こんな時間に？」
運転席の窓から
顔を出す龍二。
龍二「何でもいい、見繕ってくれ」
腰を折ったまま、
顔を上げる東。
東「あの、時間外なんで
弾みますけど？」
龍二「お前んトコは時間外
じゃなくても高えだろうが」
改めて弾痕だらけの
セダンに目を張る東。
東「何あったんすか？」
龍二「いいから早くしろ！」

東　「（ビクッ！）あ、あそこの
使ってください！」
自分の背後に停車
しているＢＭＷを
こなす東。

龍　二「頼みがある。車こっち
持ってきてこいつを運んでくれ」
後部座席に目をやる龍二。
龍二の視線を追い、
後部ドアを開けた東が
また目を張る。

東　「（息を呑み）鳴海ちゃん、
どうしたんだよ！？」
後部座席に寝転がる
蒼平が強がりの笑みを
浮かべる。

蒼　平「よお、東っち・・・・」

東　「『よお』じゃねえって！
足、血だらけじゃねえか！！」
慌てふためく東。

東　「桐生組さん、抗争でも
始めたんすか？」

龍二「いいから、ちゃっちゃと
やれ！」

東　「わ、わかりました！」
東はＢＭＷに駆ける。
煙草を咥え、
火を点ける龍二。
大きく煙を吸い込むが
咽いでしまい、
苦い顔で地面に放る。
東が乗り込んだＢＭＷを
前進させると
セダンの横につける。

東　「ほら、しっかりしろって」
東が蒼平の身体を
セダンから引き摺り出す。

蒼　平「痛ててて！バカ！
そっとやれよ！！」

東　「贅沢言うなってよお」

東がやっとの思いで
ＢＭＷの後部座席に
蒼平を寝かせる。

蒼　平「おい、電話貸してくれ、あと
救急箱」

東　「はあ？救急箱はいいけど
スマホは駄目だって」

蒼　平「何でだよ？」

口ごもる東。

東　「昨夜（ゆうべ）引っかけた
お姉ちゃんと今、ＬＩＮＥ
してんだよ」

蒼　平「へえ。お前、先月
出来た女とは別れたのか？」

東　「！（ドキッ）そ、それと
これは別ってヤツでだな」

蒼　平「いずみちゃんって言ったな？
嫉妬深いんだろ？この前、
刃物持って追いかけられた
つってたよな？」

×　×　×

救急箱を手にした
東が戻ってくる。
ＢＭＷの後部席、
身体を起こした蒼平が
開けた窓から手を出すと
救急箱を受け取る。

蒼　平「もう諦めろよ」

座席に救急箱を放り
もう一度、東に掌を
差し出す蒼平。

東　「・・・・お姉ちゃん、
横取りは無しだぜ？
真面目な純愛男で
攻めてんだからさ」

蒼　平「（笑って）そんな事するかよ。
ちなみに何ちゃんよ？」

東　「・・・・春奈」

不本意な表情で蒼平に
スマホを差し出す東。

龍二「そいつ（車）、
処分しといてくれ」

運転席の龍二に
頭を下げる東。

東「わかりました」

龍二「事務所に請求書送っとけ」

頭を下げる東。

弾痕だらけのセダンを
残し、ＢＭＷが
急発進する。

東「なんだってんだ、
急に来てよお・・・・」

セダンに乗り込もうと
運転席を開ける東。

東「（息を呑み）！？」

またまた目を張り、
シートの座面に
釘付けの東。

S9　走るBMW　車内

包帯で足の付け根を
きつく縛る蒼平。

龍　二「どうだ？」

蒼　平「へ、平気っすよ・・・・」

瓶の鎮痛剤を呷ると
スマホを手にし、
LINEを開く。
『春奈』のトークルーム
を開き、
コメント『パンツ見せて♡♡♡』
と打ち込むや送信する。
笑いを堪える蒼平。
だが、その脳裏に

×　×　×

ツナギ①に向けられた

リボルバーの銃口。

×　×　×

蒼　平「！」

身体がまた震え出す。

龍　二「怖いだろ？」

蒼　平「（ドキッ）え？」

龍　二「お前、撃たれたの
初めてじゃねえか」

蒼　平「・・・・へ、平気っすよ」

窓外に視線を外す蒼平。

『ビーッ！！』。

クラクションが
けたたましく響く。

蒼　平「！？」

龍二がハンドルに
頭をもたげている。

蒼　平「！！ちょ、兄貴！？」

×　×　×

激しく蛇行するＢＭＷ。

×　×　×

蒼　平「くそっ！」

痛む足を堪え、
身を乗り出す蒼平。
龍二の身体に被さり、
股ぐらから足元に頭を
突っ込む。
そして両手で思い切り
ブレーキペダルを押す。

×　×　×

電柱の目の前、
ギリギリで急停車する
ＢＭＷ。

×　×　×

上体を起こすと
ギアをPに入れ、
サイドブレーキを引く。

蒼　平「兄貴！！？」

蒼平の目が龍二の
脇腹に止まる。

蒼　平「兄貴の方が
ヤバいじゃねえすか！」

龍　二「・・・・大した事ねえ。
弾は抜けてるからよ」

龍二の脇腹から
血が溢れている。

蒼平のシャツ、上着も
龍二の血で汚れている。

蒼　平「病院行きましょう！！」

車の轟音、それに
混じって男達の嬌声が

遠くから近づいてくる。

蒼　平「！」

龍　二「しつけえな」

蒼　平「でも、なんで！？」

龍二が蒼平を

押し退ける。

蒼　平「兄貴！」

龍　二「考えんのは後だ」

BMWを

急発進させる龍二。

S10　走るBMW　車内

顔を歪め、ハンドルを

握る龍二がドアミラーに

目をやる。

リムジンが後ろに迫る。

蒼　平「あいつら何で俺らの場所が

わかんすか！？」

何か考え、蒼平の腕に

目をやる龍二。

龍　二「お前、今日に限って
普段と違うモン
身に着けてるか？」

蒼　平「？何日か前から腕時計を」

龍　二「自分で買ったのか？」

蒼　平「いえ、貰いモンです」

龍　二「捨てろ」

蒼　平「え？」

龍　二「早くしろ！」

S11　道

走るBMWから
金色のロレックスが
放り出される。
前方の信号が黄色から
赤に変わる。

蒼　平「危ないっ！」

龍　二「踏ん張っとけ！」

構わず交差点に
突入するＢＭＷ。
右手から大型トラック
が迫る。

蒼　平「！！」

急ブレーキを掛ける
タンクローリー。
衝突寸前でその前を
通過するＢＭＷ。
後に続くリムジンは
大きな車体に行く手を
遮られ、急停車する。

Ｓ１２　立体駐車場　＊時間経過

多くの駐停車の中に
ＢＭＷ。
運転席で上半身裸に
なった龍二。
隣の席に座り、

龍二の脇腹を
消毒する蒼平。

蒼　平「GPSって、
どういう事すか？」

龍　二「時計に仕込まれてたはずだ。
現に今、ここに現れねえだろ？」

蒼　平「時計に？どうやって？」
首を振る龍二。

龍　二「仕組みなんて俺が知るか。
前に知ってる奴から
聞いた事があってよ」

蒼　平「すげ・・・・」
呆気に取られ乍ら、
龍二の脇腹に
包帯を巻く蒼平。

龍　二「で、誰に貰った？」

蒼　平「・・・・」

S13　雑居ビル（桐生組）前　路上

＊回想　別日

セダンが停車し、
蒼平が降りる。
そこへ菱崎會・3次団体
三好組・組長の
三好　武時が組員の
羽柴　仁志を伴い、
どこからともなく現れる。

三　好「よお」

蒼　平「（驚き）叔父貴、
お疲れ様です」
深く腰を折る蒼平。

三　好「龍二は？一緒じゃねえのか」

蒼　平「病院行ってます」

三　好「病院？」

蒼　平「風邪こじらせたみたいで。
ついてこうとしたんすけど
いいって言われちゃって」

三　好「だから電話切ってやがんのか」

蒼　平「どうしたんすか？」

三　好「お前らを訪ねたんだよ。
この間の礼を言おうと思ってな」
蒼　平「事務所で待ってくだされば―」
三　好「（遮り）ちょっと顔貸せ」
蒼　平「？」

S14　近くのカラオケボックス

広めの個室内。
ソファに深々と
腰を落とす三好。
羽柴はその傍らに立ち、
テーブルを挟んだ蒼平も
姿勢よく直立している。
三　好「お前らが梶本に落とし前
つけてくれたおかげで
上納金の払いが
遅れずに済んだぜ」
蒼　平「同じ菱崎會じゃないですか。
って兄貴なら言いますよ（笑）」

三　好「（笑って）」

蒼　平「あと、戸川の叔父貴のシノギ
狙ったのもあいつらでした。
ぶん殴ったらゲロしましたよ」

三　好「やっぱりな。まあ、あっちは
未遂に終わったから
よかったぜ」

蒼　平「はい」

三　好「ったく、こんな小競り合い
してる場合じゃねえのによ、
たまんねえぜ」
ため息混じりに
煙草を咥える三好。

蒼　平「？どういう事です？」
三好の口元に
オイルライターの火を
持っていく羽柴。
三好は大きく煙を
吸い込み吐き出す。
『トントン』。

ドアが開き、女性店員が
盆に乗せた生ビールを
三好の前に置き出て行く。

三　好「ホントにいいのか？
お前は特別だ。飲んで
いいんだぞ？」

蒼　平「いえ。兄貴差し置いて
飲むわけには」

三　好「（笑って）ホント、お前は
龍二ＬＯＶＥだな（笑）」

蒼　平「（笑）勘弁してください」

三好は生ビールを
グイッと呷る。

三　好「で、何の話だったけな？」

蒼　平「えと、小競り合い
って・・・・」

三　好「ああ、そうだ」
笑ってまたビールを
呷る三好。

三　好「関西の今川會。ルーキーの

お前でも知ってんだろ？」

蒼　平「はい、でっかい組ですよね？」

三　好「（頷き）今度あいつらが
関東に進出してくるって
噂なんだ」

蒼　平「そうなんすか？」

三　好「組織の規模じゃウチら菱崎
よりとてつもなくでけえ。
向こうに荒らされる前に色々
対策立てなけりゃいけねえって
このまえ、会長（おやじ）に
進言したんだけどよ」

蒼　平「・・・・どうだったんすか？」
顔をしかめ、煙草を
くゆらす三好。

三　好「聞いてんだか聞いて
ねえんだか、何か上の空でよ。
あのもうろくジジイ」
言って口を噤む三好。

三　好「今のはオフレコだかんな？」

蒼　平「も、もちろんです」

三　好「まあ、そんな事だから
梶本なんかと小競り合いしてる
場合じゃねえんだ。
ホント助かったぜ、
龍二とお前にはよ」
深く頭を下げる蒼平。

三　好「ホントならこいつらに
やらせるべきだったんだけどよ」
羽柴に目をやる三好。

羽　柴「オヤジ、お言葉ですが」

三　好「ん？」

羽　柴「暴排条例が施行
されちまってんですよ？」
蒼平を一瞥する羽柴。

羽　柴「今までとは業界を取り巻く
状況が違うじゃないすか。
俺らが勝手に暴れたら
監督責任でオヤジが
サツに持ってかれちまう。

だから俺はこいつらみてえに
後先考えず暴れらんねえ。
オヤジと組の事考えてー」

蒼　平「（遮り）誰が後先
考えてねえんすか？」

羽　柴「あ？」

蒼　平「こっちがバカみたいな言い分
やめて貰えますか？」

羽　柴「じゃあ、考えて
動いてんのか？おめえらの
暴れっぷりを目撃した人間が
いて、サツにタレ込まれたら
どうする？言ってみろ！」

蒼　平「・・・・」
口詰まる蒼平を
鼻で笑う羽柴。

羽　柴「てめえらはそん時の
感情に任せて暴れてる
だけじゃねえか！
今までのヤクザはそれで

済んだけどよ、これからは
そうじゃねえんだ！！」

蒼　平「・・・・」

羽　柴「そもそもお前、何年目だ？
ペエペエが生意気
言ってんじゃねえぞ！！」
拳を握り込み、蒼平に
飛び掛かろうとする羽柴。

三　好「（遮り）よせ！！」

蒼　平「！！」

羽　柴「！？」

三　好「やり方は違えど、お前らは
俺の事、よく考えてくれてる。
それでいいじゃねえか」
笑う三好。

蒼　平「ウチら桐生組は暴れる事
しか出来ねえすから」

三　好「（笑って）に、しても
ほどほどにな。かねてから
武闘派と名高い桐生組といえど

このご時世だからよ」

ニヤリと笑う三好。

三　好「ま。俺が言えた義理じゃねえがな」

頭を下げる蒼平。

三好が煙草を灰皿に押し付けると突然、蒼平に顔を近づける。

三　好「あのな」

蒼　平「はい？」

三　好「羽柴はお前よりキャリアがある。目上とやり合おうなんて二度と思うな」

蒼　平「・・・・すみません」

笑う三好。

三　好「あとな」

蒼　平「？」

何か言おうとするが思い留まる三好。

三　好「やっぱ、これは龍二が

いるときにまた話すわ」

蒼　平「はあ」

ジョッキを飲み干し、

立ち上がる三好。

三　好「じゃあな。好きなだけ

歌ってけ」

蒼　平「歌っすか？」

三好は笑って羽柴を伴い

去って行く。

蒼　平「・・・・」

S15　同　中　EV前～事務所前廊下

＊回想　続き

エレベーターが開き、

蒼平が出てくる。

廊下の向こう、正面の

事務所のドアが開き

仕立てのいいスーツを

着た貫禄のある男

＝桐生　源三が
若頭の鹿賀　州司を
引き連れて出てくる。

蒼　平「ご苦労様です」
腰を深く折り頭を
下げる蒼平。

桐　生「三好のトラブル、解決
したそうじゃねえか」

蒼　平「え？はい」

桐　生「そんなモン、向こうの
若い衆にやらせりゃいいんだ」

蒼　平「兄貴が三好の叔父貴を
助けるんだ、って仰りまして」

桐　生「・・・・」
桐生は蒼平の脇を通り、
エレベーターへ向かう。

蒼　平「（見送り）・・・・」
鹿賀が蒼平の前で
立ち止まる。

鹿　賀「鳴海」

蒼　平「はい？」

鹿　賀「このご時世に暴れんのは
ウチの組くれえだが、
程ほどにな」

蒼　平「今さっき、三好の叔父貴にも
言われました。気を付けます」

鹿　賀「？三好が来たのか？」

蒼　平「え？こっちに顔出して
ないんすか？」

鹿　賀「まあいい」

桐生が自分の腕から
金のロレックスを外す。

鹿　賀「ほれ」

蒼　平「？」

鹿　賀「やるよ。ロレックス、
欲しがってたろ？」

蒼　平「え！？いいんすか？」

鹿　賀「おお。新しいの買うからよ」

蒼　平「ありがとうございます！」

頭を下げ、ロレックスを

受け取る蒼平。
鹿賀は桐生の元へ
急ぐとエレベーターに
乗り込みその姿を消す。
嬉しそうにロレックスを
腕に巻く蒼平。

S16　立体駐車場　＊現在

蒼　平「？どういう事すか！？
頭が俺らを追ってるって」

龍　二「・・・・電話貸せ」
（東の）スマホを
龍二に渡す蒼平。
龍二は番号をプッシュ
しようとするが。

龍　二「お前、オヤジの
番号覚えてるか？」

蒼　平「俺すか？そもそもオヤジの
番号なんて教えて

貰ってないすよ」

龍　二「なら、事務所は？」

蒼　平「事務所すか？えっと、

０３－〇〇〇〇－〇〇〇〇

っすよ」

言われるまま番号を

プッシュする龍二。

コール音。

若い男の声「お待たせしましたあ、

ｐＩＺＺＡボーノで～す」

すかさず通話を切る龍二。

龍　二「・・・ピザ屋に繋がったぞ」

蒼　平「え！？すんません！

え～と・・・・」

考える蒼平。

蒼　平「あ！思い出しました！」

Ｓ１７　同　表～夜の道

蒼平の運転するＢＭＷが

スロープから降りてくる
と一般道に飛び出す。
コール音が続く。

S18　走るBMW　車内

通話を切る龍二。

龍　二「出ねえ」

蒼　平「どうします？」

龍　二「・・・・」

蒼　平「あの・・・・思い過ごしかも
しんないすけど、三好の叔父貴
何か知ってんじゃないすかね？」

龍　二「？」

×　×　×

神妙な顔で何かを
言いかける三好。

三　好「やっぱ、これは龍二が

いるときにまた話すわ」

×　×　×

龍　二「・・・・お前、叔父貴の
番号―って、わかる訳ねえか」

蒼　平「東っちのスマホ、事務所は
入ってんじゃないすかね？」

電話帳を検索する龍二。
電話帳に『三好組』と
ある。

通話ボタンを押す龍二。
コール音が続き。

羽柴の声「なんだよ！オラぁッ！！！」
切羽詰まった怒声が響く。

龍　二「羽柴か？桐生（組）の岡崎だ」

羽柴の声「え！？あ、、、」

龍　二「お前、随分な電話応対
すんじゃねえか」

S19　三好組　事務所

固定電話を耳に
当てている羽柴以外、
室内には誰もいない。

羽　柴「・・・・岡崎さん、
どうなってんすか？」

羽柴は奥歯をギリっと
噛みしめる様に言葉を
絞り出す。

龍二の声「あ？」

羽　柴「・・・・オヤジが
殺られました」

＊以下、カットバック

龍　二「！？誰にだ？」

荒い息遣いの羽柴。

羽　柴「・・・・岡崎さんです」

龍　二「あ？」

羽　柴「さっき、本部から通達
きたんです。岡崎さんと鳴海を

追うようにって」

龍二「どういう事だ？」

蒼平が何事かと龍二に
目をやる。

羽柴「こっちこそわかりませんよ！
だから今、ウチの連中は総出で
岡崎さんらを探してます。
桐生組はもちろん、
菱崎會総出で」

龍二「・・・・お前は俺らを
探さねえのか？」

羽柴「・・・・俺、オヤジが
病院運ばれたとき、真っ先に
飛んでったんです。
で、逝っちまう前に自分を
襲ったのが誰なのか
言ったんです・・・・」

龍二「・・・・誰だ？」

羽柴「・・・・桐生の叔父貴です」

龍二「なに？」

羽　柴「叔父貴の指示を受けた連中が
うちのオヤジを・・・・」
龍　二「・・・・」
羽　柴「俺はオヤジの言う事を
信じます。けど、これだけ
大騒ぎになっちまって
どうしたらいいのか・・・・」
龍　二「・・・・お前は下手に騒ぐな。
こっちでなんとかする」
通話を切る龍二。
蒼　平「・・・・あの、
どうしたんすか？」
龍　二「止めろ」
蒼　平「？」
BMWが路肩に停車する。
沈黙の間。
蒼　平「兄貴？」
龍　二「三好の叔父貴が殺られた」
蒼　平「え！？」
龍　二「・・・・」

蒼　平「まさか、それも頭が
　　噛んでんでんじゃー」
龍　二「（遮り）頭だけじゃねえ」
蒼　平「え？」
龍　二「というか、これは頭の
　　一存じゃなさそうだ」
蒼　平「？どういう事です？」
龍　二「・・・・うちの
　　オヤジ（組長）の指示だ」
蒼　平「え！？」
龍　二「三好の叔父貴が息、
　　引き取る前に言ったそうだ。
　　オヤジの指示で襲われたってな」
蒼　平「！？間違いって事は
　　ないんすか？」
龍　二「そんなヘマ言う人間じゃねえ」
蒼　平「じゃあ、叔父貴や俺らを
　　狙う理由って」
龍　二「俺らが梶本にケジメ取った
　　事と関係あんだろうな」

蒼　平「？どういう事すか？」

龍　二「・・・・梶本のタタキに
　　オヤジが噛んでる」

蒼　平「え！？」

龍　二「叔父貴はその事に
　　気づいてたのかもしれねえな」

蒼　平「だから消された
　　ってんですか！？」

龍　二「・・・・」

蒼　平「でも、なんで？敵対してる
　　連中使って・・・・しかも
　　身内をたたくんすか！？」

龍　二「わかんねえ」

蒼　平「・・・・」

龍　二「ひとつわかってんのは」

蒼　平「？」

龍　二「オヤジは俺らの息の根を
　　止めるまで追うだろうって事だ」

蒼　平「！」

　　ゴクリと唾を

呑み込む蒼平。

蒼　平「くっそお、どういう事
だよ！？身内の俺らに手え
掛けようとするなんてよ！！」

ハンドルを激しく
叩く蒼平。

龍　二「蒼平」

蒼　平「はい？」

龍　二「お前の女、電話してみろ」

蒼　平「！！（ハッとして）」

龍二から受け取った
スマホに番号を打ち込む
蒼平。

呼び出し音が続く。

蒼　平「くそっ」

BMWが急発進する。

S20　小さなマンション　傍

BMWが急停車する。

蒼　平「兄貴は休んでてください」

龍　二「バカにすんじゃねえ」

降りようとして顔を

しかめる龍二。

蒼　平「俺は殺られませんから」

龍　二「・・・・」

そう言ってトランクを

開け、運転席を

降りる蒼平。

開いたトランクを漁ると

工具箱から

スパナを手にする。

S21　同　表

蒼平が辺りを警戒

しながら急ぎ足で

やって来る。

S22　同　一室　前

取り出した鍵を鍵穴に
差す蒼平。

蒼　平「！」

鍵は開いている。
勢いよくドアを開け
中に飛び込む。

S23　同　中

蒼　平「涼花！」

返事は無い。電気の
点いてない廊下を
進む蒼平の足が止まる。

蒼　平「！！」

暗がりの中、壁にもたれ、
へたり込んでいる人影。

蒼　平「涼花！？」

慌てて電気を点けると
人影＝森　涼花が

口から血を流し
呆然としている。

蒼　平「涼花！」

駆け寄り、涼花の
肩を抱く蒼平。

蒼　平「おい！大丈夫か！？」

虚ろな目で蒼平を
見つめる涼花。

涼　花「チャイム鳴ったからさ、
あんただと思ったんだ」

蒼　平「！」

涼　花「バカだね。確かめもしないで
出たら沢山男が乗り込んできて」

蒼　平「！！」

頭に血を昇らせる
蒼平の足に目をやる。

涼　花「どうしたのよ、それ？」

蒼　平「・・・・俺の事はいい。
そんな事よりー」

涼　花「（遮り）まだ、危ない事

してんの？」

蒼　平「！！」

涼　花「あんたの組の人達でしょ？
あんたが行きそうな場所
教えろって。あたし、
あんたの事なんて
わかんないからって
言ったのにさ」

痛々しい口元を見る蒼平。

蒼　平「・・・・他に痛いトコ
ないか？」

首を横に振る涼花。

蒼　平「病院行くか？」

涼花はまた首を横に振る。

蒼　平「救急箱持ってくる」

寝室に入る蒼平。

蒼　平「！！」

蒼平の視線の先、
ベビーベッドや
赤ちゃん用モビール

（吊り下げ式おもちゃ）
が寂しそうに
設置されている。

蒼　平「・・・・」

いつの間にか涼花が
背後、戸口に立っている。

涼　花「・・・・龍二さんのトコに
転がり込んでんの？」

蒼　平「兄貴に迷惑掛けれねえよ。
事務所やサウナで寝てる」

涼花を見もせず言うと
しゃがみ込み、
箪笥の一番下の
抽斗を開ける蒼平。
敷き詰められた衣類を
次々放ると分厚い封筒が
現れる。

涼　花「2人で貯めたお金じゃない」

蒼　平「・・・・もう使いみち
ねえんだからいいだろ」

涼花「・・・・私があんたを
責めた？」

蒼平「！」

振り返ると涼花が
涙ぐんだ目で蒼平を
見つめている。

蒼平「・・・・」

封筒を掴み
立ち上がる蒼平。

蒼平「・・・・一緒に来い」

涼花「いい」

蒼平「？」

涼花「友達の家行くから」

蒼平「・・・・」

涼花「ヤクザ辞めてくんない
あんたの言う事は聞きたくない」

蒼平「・・・・」

涼花「出てって」

蒼平「・・・・」

S24　同　前～人気の無い路地

マンションから
出てくる蒼平。
細路地に入ると、
暗がりに停車した
BMWに乗り込む。

蒼　平「お待たせしました」

龍　二「彼女は元気だったか？」

蒼　平「・・・・」

蒼平の顔を
ジッと見る龍二。

龍　二「何かあったか？」

深く長く息を吐く蒼平。

龍　二「・・・・」

蒼　平「殺りましょう」

龍　二「？」

蒼　平「オヤジっすよ。頭や俺らを
追う連中も全員殺るんすよ」

ハンドルを激しく何度も

叩く蒼平。

蒼　平「くそっくそっくそおおおっ！」

龍　二「落ち着け！」

蒼平の肩に手をやり

制止する龍二。

蒼　平「・・・・すみません」

龍　二「お前、自分で言ってる事

分かってんのか？」

蒼　平「？」

龍　二「組の反目にまわる事に

なんだぞ？」

蒼　平「・・・・そうしなきゃ

殺られちまうじゃないすか！？

兄貴はそれでいいんすか！？

俺は嫌です！舐められたまま

終われないすよ！

・・・・しかも涼花を！！

ぜってえ許せねえ！！！」

断固たる決意の目で

龍二を見据える蒼平。

龍　二「・・・・ったく、叶わねえな。
お前は無鉄砲過ぎてよお」
小さく笑う龍二。
龍　二「やるぞ」
蒼　平「・・・・はい」
S17　＊S1リフレイン
目が飛んだツナギ①が
蒼平に向けたリボルバー
の引き金を引く。
S18　走るBMW　車内
蒼　平「銃、要りますよね？
少ないですけど
金、持ってきたんで」
龍　二「なら、いい場所がある」
ハンドルを握る
手に力を込める蒼平。

蒼　平「・・・・」

S19　マンション　一室　＊回想

ベビー用品を飾る
蒼平と涼花。

涼　花「蒼平」

蒼　平「ん？」

涼　花「ありがと」

蒼　平「何がだよ？」

満面の笑みを見せる涼花。

涼　花「アタシ、ヤクザじゃ
なくなる蒼平の事、
もっと好きになる」

蒼　平「バカ言ってんじゃねえよ」

涼　花「龍二さんにはもう言ったの？」

蒼　平「・・・・まだだよ」

涼　花「なんでよ？」

蒼　平「・・・・なんか
照れくせえんだよ」

涼　花「（笑）」

蒼平の手を取り、

自分のお腹に

当てさせる涼花。

涼　花「この子が生まれるときは、

傍にいてね」

蒼　平「・・・・ああ」

S20　団地　前　＊現在

BMWが停車する。

蒼　平「行ってきます。

休んでてください」

龍　二「俺が来てる事は言うなよ？」

蒼　平「え？わかりました」

出て行く蒼平。

ふと振り返ると、

龍二はスマホを

取り出し何か考えている。

蒼　平「？」

S21　同　一室前

乱暴に何度も
チャイムを押す蒼平。
しばらくすると
ドアの向こうから
けたたましい声が響く。

女の声「うるっさいよ！！」

蒼　平「（呆れて）汚え口きく
ババアだな」

更にチャイムを押す。

蒼　平「開けろよ」

女の声「こんな真夜中に
近所迷惑だろうが！！」

蒼　平「急いでんだ。
開けなきゃ近所迷惑
どころじゃねえ迷惑かけるぞ」

女の声「んだとおっ！？」

蒼　平「桐生組の龍二さんの紹介だよ」

しばしの間。
やがてチェーンを
付けたままの
ドアが薄く開き、
初老の女＝金子　信子が
顔を出す。

蒼　平「おいおい・・・・」

信子の手には
ショットガン。

S22　同　和室

古びたソファにもたれ、
殺風景な室内を
見回す蒼平。

蒼　平「・・・・」

襖が開き、隣の部屋から
信子がやってくる。
その手には黒く
大きなケース。

信　子「龍二の仲間なら最初から
言ってくれりゃ
よかったのにさ」

蒼　平「？仲間というか、弟分さ」

蒼平の前、ローテーブル
にケースを置く信子。

信　子「何年？」

蒼　平「組に入って？1年」

信　子「素人（トーシロ）かい」

蒼　平「あ？」

前のめりで睨む蒼平に
意を介さない信子。

信　子「でもまあ、あんたみたいな
若いのが今時、よくヤクザ
なんかになったね」

蒼　平「ヤクザに憧れてんじゃねえ。
龍二さんみたいな男に
なりてえんだ。あの人の
傍にいてえから、無理言って
組に入れて貰ったんだよ」

誇らしげに言う蒼平。

信子「・・・・あいつ、元気かい？」

蒼平「え？ああ」

信子「顔出したら説教して
やんのにさ」

蒼平「？」

信子「じゃ、好きなモン選びなよ」

信子がケースを開くと、
様々な拳銃が姿を現す。

蒼平「一番安いヤツは？」

一瞬、不服そうな
表情を浮かべる信子。
気を取り直し、
一丁の拳銃を手にする。

信子「これなんかどうだい？」

蒼平「（見て）これ、何て銃？」

信子「ベレッタのブラジリアン
コピーでタウルスってんだ」

蒼平「コピー？バッタもんて事か？」

信子「―の割には信頼出来る

代物だよ」

怪訝な表情で信子から

タウルスを受け取り、

慣れない手つきで

マジマジと見る蒼平。

信　子「ウチの商売は信頼で

成り立ってんだ。

客に迷惑は絶対に掛けないよ、

龍二には特にね」

蒼　平「・・・・さっきから

龍二、龍二って兄貴とは

どんな関係？」

信　子「あいつが駆け出しの

頃からの付き合いだよ。

いわば、母親代わりって

とこだね」

姿勢を正す蒼平。

蒼　平「・・・・すんません。

舐めた口利いて」

ゲラゲラ笑う信子。

信子「威勢が良くてアタシゃ
好きだよ。昔の龍二も
あんたみたいにクソ生意気でさ。
そっくりだよ」

蒼平「・・・で、幾らすか？
2丁欲しいんすけど」

信子「2丁？1丁で70万」

蒼平「そんなに！？
弾、つくんすか？」

信子「弾は別に決まってんだろ。
9ミリの1ケース、
50発入りで10万」

蒼平「少し、まかりませんかね？
金、そんなにねえんすよ」

信子「（ため息）しょうがないね。
タウルス2丁と弾で100。
それでどうだい？」

蒼平「・・・じゃあ、それで」

信子「龍二んトコの坊やだから
特別だよ」

蒼　平「助かります」

信　子「ところで、誰がこれ
使うんだい？」

蒼　平「え？・・・・俺ですけど」

信　子「もう一丁は誰だ？
って聞いてんだよ」

蒼　平「・・・・俺の同期っすよ」
蒼平を値踏みする様に
見る信子。

信　子「そもそもあんた、
銃使った事あんの？」
口詰まる蒼平。

蒼　平「あ、ありますよ。
てか、急いでるんです」

信　子「じゃあ、向こうで
包んでくるからさ。
玄関で金と交換だよ」

蒼　平「（頷き）」
ケースを閉じる信子。

蒼　平「しかし女性なのに

アブねえ商売してるっすね」

信　子「好きでやってんじゃないよ。
ウチの人がやってた
商売だからね」

蒼　平「やってた？」

信　子「4年前に死んだよ。
あんたと同じ極道モンで、
腕っぷしの強い男だった。
あの人も組は違えど、若い頃の
龍二を可愛がってね。足洗って
この商売始めたけど、昔揉めた
奴に恨まれ続けた挙句、
遂にヤられちまったよ」

蒼　平「・・・・」

信　子「過去の因縁てのは
拭えないんだよ。いつまでも
追ってくるんだ」

蒼　平「・・・・」

信　子「ま。龍二のやつが
キッチリ落とし前つけて

くれたから少しは
気が晴れたけどね」
小さく笑い煙草を
咥える信子。
火を点けると
蒼平をジッと見る。
信子「ところであんた、
食えてんのかい？」
蒼平「？まあ、なんとか・・・・」
信子「暴排条例なんてモンが
生まれてからヤクザは
まともにシノギも出来なきゃ、
生活は厳しくなる一方だろ。
部屋を借りる事も出来なきゃ、
銀行口座も作れず携帯だって
契約出来ない。
出来ない事ずくしさ」
蒼平「・・・・」
信子「ウチの人も変わっちまった
今の環境に嫌気さしちまって

足を洗ったけど、向こう5年は
現役ん時と同じ扱いさ。
だからやっと入れようとした
籍を入れる事も出来なくてさ。
この部屋も電気水道ガス電話、
何もかも全部、あたし個人の
名義であの人は
生きながらえてたのさ」

蒼　平「・・・・」

信　子「あんたも女に守って
貰ってんじゃないのかい？」

蒼　平「！べ、別に俺はー」

信　子「（遮り）顔見りゃ分かる。
うちの人と同じ、甘っちょろい
顔してるからね」

思わず身を
乗り出す蒼平。

蒼　平「甘っちょろいだあ！？」
ハッとして、襟を正し
頭を下げる蒼平。

信子はまたゲラゲラ笑う。

信　子「あんたも腕っぷしには
自信があんだろ？」

蒼　平「？そりゃまあ」

信　子「・・・・」

蒼　平「なんすか？」

灰皿に煙草を
押し付ける信子。

信　子「大事にすんだよ、自分の女を。
あたしは大事にされる前に
逝かれちまったからさ」

心なしか悲しげな
信子の表情。

信　子「包んでくるから
ドア外で待ってな」

蒼　平「外？」

信　子「それがルールなんだよ」

ケースを手に隣の部屋へ
消える信子。

蒼　平「・・・・」

S23　同　玄関　＊時間経過

玄関前に立つ蒼平。
ドアが開き、信子が顔を
出すと包みを差し出す。
蒼平はそれと同時に
札の入った封筒を
差し出す。
互いのモノを交換し、
中身を確認する。

蒼　平「ん？」

包みの中、銃と
弾薬ケースの他に
予備のマガジンが
2つある。

信　子「弾も入ってる。サービスだよ」

蒼　平「すんません」

踵を返す蒼平。

信　子「・・・・普段は客の事、

関わらない様にしてるから
聞こうか迷ってたんだけどさ」
蒼　平「（振り返り）？」
信子が蒼平の右足に
目を留めている。
信　子「ヤバい事でもあったのかい？」
蒼　平「・・・・心配ないっすよ」
信　子「あんたの事なんか
心配してないって」
蒼　平「（ムッとして）」
信　子「龍二も一緒なんだろ？」
蒼　平「（ドキっ）え？」
小さく笑う信子。
信　子「わかりやすい坊やだねえ」
蒼　平「・・・・」
信　子「それ持ってどこへ行く気さ？」
蒼　平「・・・・ちょっと
鴨川の方まで」
信　子「鴨川？どこでもいいけどさ、
あいつに迷惑かけて余計な

シコリ残すんじゃないよ」

蒼　平「？」

しまった、という風情で
口を詰まらせる信子。

蒼　平「どういう意味すか？」

S24　喫茶店　表　＊回想

店の前に路駐したセダン。
その傍らで立っている
蒼平。
窓から中をそっと窺うと
女性と向かい合っている
龍二が見える。
やがてその顔が驚きに
包まれる。

蒼　平「？」

見てはいけないモノを
見てしまったかの様に
慌てて視線を外す。

×　×　×

＊時間経過

ドアが開き、女性が
出てくる。
女性は蒼平に気付くと、
軽蔑の眼差しを向ける。

蒼　平「？」

思わず、凄む蒼平。
女性は蒼平を避ける
様にそそくさと
店を後にする。
それを不満げに
見送ると中を窺う。
龍二は思い詰めた様に
何か考えている。
蒼平のポケットの中で
ガラケーが鳴る。

蒼　平「（出て）はい」

×　　×　　×

龍二のテーブルに
やってくる蒼平。
龍二はまだ考え事をし、
蒼平に気付かない。

蒼　平「あの、兄貴」

龍　二「（気づいて）？」

蒼　平「オヤジから今度の
取引の件でお電話です。
兄貴の携帯、電源
入ってないってんで」

龍　二「ああ」

蒼平からガラケーを
受け取り表へ
出て行く龍二。
蒼平も伝票を手に
後を追う。

S25　走るセダン　車内　＊回想続き

運転する蒼平が
ルームミラーに目をやる。

蒼　平「・・・・」

後部座席の龍二は
神妙な顔でガラケーを
操作している。

蒼　平「あの、兄貴」

龍　二「ん？」

蒼　平「さっきの人は何すか？
急に兄貴を呼び出して」

龍　二「前の女房の親友だとよ」

蒼　平「？兄貴に何の用
だったんすか？」

龍　二「・・・・俺にヤクザを
辞めろとさ」

蒼　平「え？何すかそれ？」

龍　二「さあ、訳わかんねえよ。
変な女だったからな（笑）」

蒼　平「変な女っすね（笑）」

S26　同　前　＊現在

蒼平がBMWに乗り込む。

蒼　平「お待たせしました」

龍　二「よこせ」

蒼平が包みから出した
タウルスとマガジンを
受け取る龍二。
セーフティを掛け
腹に挿し、マガジンを
上着の内ポケットに
入れる。
蒼平も龍二に倣うと
弾薬ケースを
ダッシュボードに入れる。

蒼　平「・・・・兄貴」

龍　二「ん？」

蒼　平「兄貴は足洗うんすか？」

龍　二「！」

蒼　平「あの人が、まだヤクザ
辞めてない兄貴に
説教しなきゃ、って
言ってました」

溜息をつく龍二。

龍　二「あのババア。余計な事
言いやがって」

蒼　平「・・・・兄貴はテッペン
取るんじゃないんすか！？
言いましたよね？
『ぜってえ、この世界で
テッペン取ってやる』って！」

龍　二「・・・・」

蒼　平「俺は兄貴にテッペンに
立って欲しい！」

龍　二「・・・・」

蒼　平「兄貴に辞めるなんて
言われたら、俺は
どうすりゃいいんすか！？」

龍　二「・・・・それは
　　お前の本心か？」
蒼　平「え？も、もちろんすよ」
　　戸惑う蒼平。
龍　二「心配すんな。
　　俺は足を洗いはしねえよ」
蒼　平「・・・・」
龍　二「車出せ」
蒼　平「事務所でいいすか？
　　オヤジと頭いますよね？」
龍　二「もうオヤジや頭なんて呼ぶな。
　　鹿賀の性格考えりゃ、さっきの
　　実働部隊を引き連れて
　　俺らを探してる筈だ」
蒼　平「じゃあ事務所の桐生
　　攻め込んで、鹿賀の野郎も
　　待ち受けますか？」
龍　二「桐生は鴨川だ」
蒼　平「（驚き）鴨川？」
龍　二「今夜はそこにいる」

蒼　平「何があんすか？」

龍　二「秘密の別荘といったとこだ。
　　囲ってる女がいる」

蒼　平「そうなんすか。守りは
　　どうなんすかね？」

龍　二「手薄だ。周りにヤクザが
　　いるのを女が嫌がるらしい」

蒼　平「（呆れて）ヤクザの組長と
　　付き合ってて何言ってんすかね」

龍　二「（笑って）鴨川へ向かえ」

S27　走るBMW　車内

　　ハンドルを握る蒼平。
　　助手席の龍二は
　　目を閉じている。

龍　二「今、どの辺だ？」

蒼　平「もうすぐ三軒茶屋です」
　　スマホが鳴る。

蒼　平「？」

龍二が見ると『公衆電話』
と表示されている。

龍　二「（出て）もしもし」

東の声「岡崎さん、さっきはどうも。
東です」

龍　二「どうした？」

S28　蒲田　工場街　中古車屋　傍

10円玉をジャラジャラ
投入しながら公衆電話で
話している東。

東　「今、組の人たちが大勢来て、
岡崎さんが乗って来た車、
囲むなり怒鳴り散らしてて」

＊以下、カットバック

龍　二「で、お前は？」

東　「ヤバい感じしたんで裏口から
逃げて居留守かましました」

龍　二「そうか」

東　「何あったんすか？」

龍　二「お前は知らなくていい。
しばらく戻るんじゃねえぞ」

東　「・・・・わかりました」

＊カットバック終わり
突然、後方から光が差す。

蒼　平「！？」

ドアミラーの中、
リムジンが猛スピードで
肉薄してくる。
ツナギ③がリムジンの
助手席から顔を出す。

ツナギ③「見つけたぞ、
この野郎おおおっ！」

S29　走るBMW　車内

蒼　平「あいつら、なんで！？」
歯軋りする龍二。

龍　二「東のトコに現れたらしい」

蒼　平「え？」

龍　二「人員割いて俺らが
立ち寄りそうなトコを
虱（しらみ）潰しに
当たったって事だ」

蒼　平「！？」

×　×　×

団地。
荒らされた室内。
頭から血を流した信子が
倒れている。

信　子「ごめんよ、龍二・・・・」

×　×　×

蒼　平「くそっ！」

アクセルを自棄気味に
踏み込む蒼平の顔が歪む。

蒼　平「痛（つ）ッ！」
追っ手がスピードを
上げて迫る。
前方を見据えた
龍二の目が留まる。
龍　二「そこだ！」
蒼　平「！？」
フロントガラスの向こう、
車線の左手に
地下パーキングへの
入り口が見える。
咄嗟にハンドルを
左へ切る蒼平。
ＢＭＷがスロープを
降りていく。
虚を突かれたリムジンが
入口を数メートル
やり過ごしたところで
急停車し、バックする。

S30　地下パーキング

リムジンが辺りを
探る様に徐行で
やってくる。
やがて前方に停車した
BMWが見える。
その数メートル手前で
停車するリムジン。
中から銃を持った
3人のツナギが降り、
最後に鹿賀が降り立つ。

鹿　賀「さっさと、ありったけの
弾ぶち込め」

BMWにゆっくり近づく
ツナギたち。

ツナギ③「あ！？」

鹿　賀「？」

ツナギたちがBMWの
ドアを開け、車内を

見るが誰もいない。

ツナギ③「いねえぞ」

鹿　賀「ちっ」

遠くでエンジン音が
聞こえる。

鹿　賀「！？」

×　×　×

スロープを昇っていく
シルバーのベンツ。
高級なスーツ姿の
男＝赤城　弘明が
憮然とした表情で
ハンドルを握っている。
後部座席に身を沈める
龍二と蒼平。
蒼平のタウルスの銃口は
赤城の脇腹に
押し付けられている。

S31　走るベンツ　車内

ベンツが地上に出る。

赤　城「ホントに何もしないんだな？」

蒼　平「あんたが余計な事しなけりゃ」

赤　城「で、どこまで走らせる気だ？」

タウルスの銃口で

赤城の脇腹を突く蒼平。

蒼　平「千葉。鴨川まで行ってくれ」

赤　城「今から！？」

蒼　平「俺ら、運転しんどくてさ」

赤　城「だからってよお」

蒼　平「もう家に帰るだけだろ？」

赤　城「冗談言うな。用があんだよ」

蒼　平「何用だよ？」

龍二が助手席に目をやる。

龍　二「それ、何だい？」

蒼　平「？」

助手席にラッピング

された箱がある。

赤　城「・・・・プレゼントだよ」

蒼　平「プレゼント？」

赤　城「息子の誕生日なんだ。

これから病院へ行こうと

してたのに、

あんたらがよお・・・・」

蒼　平「病院？」

赤　城「長いこと、入院してんだ」

龍　二「・・・・」

蒼　平「にしたって、こんな時間に

面会なんて出来ねえだろ？」

インパネの時計は

１０時過ぎを

指している。

赤　城「日付が変わる前に

どうしても渡したくてな。

病院に無理いって

これを置きに行く事だけ

許してもらったんだよ」

龍二を見る蒼平。

龍　二「病院はどこだ？」

赤　城「五反田」

龍　二「じゃあ、そこで降ろしてくれ」

蒼　平「兄貴」

赤　城「いいのか？」

×　×　×

インパネの時計は
10時30分を
指している。

龍　二「子供は幾つだ？」

赤　城「10歳。1人息子だ。
年取ってから授かった子でな。
嫁は一昨年、男作って
消えちまってよ。あいつを
守れんのは俺しかいねえ。
だから今までの忙しい仕事
辞めて時間に余裕のある

商売してる」

蒼　平「へえ。何してんだい？
忙しかった仕事って何よ？」

赤　城「まあ、大した商売じゃねえよ」

龍　二「・・・・」

赤　城「子供はいい。人生に
やる気っていうか、
恥ずかしくない様に
生きようって思えるからよ」

龍　二「・・・・」

蒼　平「・・・・なんで
入院してんだよ？」

赤城が唇をギュッと結む。

赤　城「白血病だ。入院して
かれこれ1年になる」

龍　二「・・・・」

蒼　平「・・・・」

赤　城「あんたら、細かい事情は
分からんが、ヤバい状況
なんだろ？」

蒼　平「・・・・まあな」

赤　城「アシが欲しいなら、
用意してやれる」

蒼　平「アシ？ホントか？」

赤　城「俺を見逃してくれた礼だ。
そういうのに長けた奴を
知ってんだ」

蒼　平「頼む。って、あんたさあー」

蒼平の言葉を遮る様に
センターコンソールに
置かれた赤城の
スマホが鳴る。

赤　城「出てもいいよな？」

蒼平が龍二を窺う。

龍　二「ああ」

スマホを手に取る赤城。

赤　城「（出て）赤城です。
・・・・え！？」

蒼　平「？」

龍　二「？」

赤　城「む、息子は
大丈夫ですか！！？」
顔を見合わす
龍二と蒼平。
赤　城「すぐに行きますから！」
震える手でスマホを
放ると、アクセルを
強く踏み込む赤城。
蒼　平「どうしたんだよ？」
赤　城「容体が・・・・息子が
やべえんだよ！」
絶望に包まれた赤城の顔。
蒼　平「・・・・」
龍　二「・・・・」
S32　〇〇病院　前
ベンツが急停車する。
運転席を降りようとする
赤城の首根っこを蒼平が

後ろから掴む。

蒼　平「おい！手え貸してくれるって
ヤツは！？」

赤　城「離せ！！」

蒼　平「そうはいくかよ！」
スマホを手にし、
ロックを解除する赤城。

赤　城「“犬山”ってヤツだ！
勝手に連絡しろ！」
スマホを受け取ると
赤城を解放する蒼平。
赤城は喉を押さえながら
慌てて出て行く。

蒼　平「・・・・」
スマホの通話履歴を
見て怪訝な表情を
見せる蒼平。

蒼　平「犬山　猫お？
兄貴、ありましたよ」
龍二に目をやると、

その視線は病院に
向けられている。

蒼　平「？」

蒼平もやった視線の先、
受付で看護師に何か
説明を受けている
赤城の姿。
やがて取り乱しながら
奥に駆けていく。

蒼　平「・・・・」

蒼平が改めて龍二に
目をやると、その目は
哀しみに満ちている
様に見える。

蒼　平「・・・・」

S33　お寺　墓地　＊回想

墓石の花立てに
色とりどりの花を

ぶっきらぼうに挿す龍二。
墓石には『永野家之墓』。
墓誌には、戒名の下に
“俗名　絵美里
令和1年　5月28日　没
享年32“　とある。

龍　二「・・・・」
水の入った手桶を持った
蒼平がやってくる。

蒼　平「兄貴」
手桶を受け取り、柄杓で
墓石と花立てに
水をやる龍二。

蒼　平「会ってみたかったすよ、
兄貴の奥さん」

龍　二「元、だ。それに
籍は入れてねえ」

蒼　平「あ、すみません」

龍　二「お前と出会う前に
別れてたからな」

蒼　平「ここに連れて来てくれたの、
初めてっすね」
龍　二「俺も初めて来た」
蒼　平「え？そうなんすか？」
龍　二「何度か来ようとしたが
出来なくてな」
蒼　平「でも、奥さんだった
人すよね？」
龍　二「会いにくるとおかしく
なっちまう気がしてよ」
蒼　平「？」
改めて墓石をジッと
見つめる龍二。
龍　二「こいつには何もして
やれなかったからな」
蒼　平「・・・・なんで
別れたんすか？」
龍　二「こいつは俺にヤクザを
辞めて欲しがってた」
蒼　平「！」

龍　二「だが、俺がそれを無視
したから向こうから離れてった」
蒼　平「・・・・」

×　×　×

涼　花「アタシ、ヤクザじゃ
なくなる蒼平の事、
もっと好きになる」

×　×　×

蒼　平「・・・・この前の友達
ってのは奥さんの希望を
改めて伝えに来たんすね？」
龍　二「元、だ」
蒼　平「あ。すみません」
龍　二「・・・・」
蒼　平「・・・・兄貴は今、
どう思ってんですか？」

龍　二「・・・・俺にはこの道しか
　　ねえよ」
蒼　平「・・・・」

S34　○○病院前＊現在　＊時間経過。
　　後部シートに横並びの
　　蒼平と龍二。
蒼　平「・・・・あの男、
　　戻ってこないすね」
龍　二「年取ってから生まれた
　　子供って言ってたな」
蒼　平「ええ」
龍　二「お前はもう子供
　　作んねえのか？」
蒼　平「いや、俺はー？」
　　驚いた顔で
　　龍二を見る蒼平。
蒼　平「“もう”って・・・・
　　知ってたんすか？」

龍　二「お前が言わねえから
　　黙ってたけどな」
蒼　平「一体誰にー！？」
　　ハッとする蒼平。
蒼　平「・・・・涼花っすか？」
龍　二「（無視して）水臭えな」
蒼　平「・・・・すんません。
　　ちゃんと生まれてたら
　　言おうと思っててて」
龍　二「この世界から足洗うのをか？」
蒼　平「！」
龍　二「彼女から相談受けたんだ。
　　自分が産めなかったから
　　お前が足を洗うきっかけ
　　失っちまったってな」
蒼　平「！」
龍　二「どうなんだよ？」
蒼　平「・・・・ガキが出来たのは
　　凄え嬉しかったんすけど、
　　不安はあったんです」

龍　二「？」

蒼　平「無事生まれて、
あいつとの約束通り
足洗ったら後悔
すんじゃねえか？って」

龍　二「・・・・」

蒼　平「俺は兄貴に憧れて
この世界に入って・・・・
兄貴と天下獲るの
諦められんのか？って」

龍　二「・・・・」

蒼　平「けど今はもう兄貴と
天下獲る事しか頭にないです」

龍　二「どうしてだ？」

蒼　平「あいつが産めなかったのは
俺の責任だから」

龍　二「？」

S35　マンション　玄関　＊回想

靴を履く蒼平。
お腹が少し大きくなった
涼花がやってきて
蒼平の背中に声を投げる。

涼花「どこ行くの？」

蒼平「ちょっとな」

涼花を見もせずに
答える蒼平。

涼花「・・・・いつになったら
ヤクザやめんのよ？」

蒼平「・・・・もう少し待てよ」

涼花「いつまで？」

蒼平「・・・・」

涼花「この子が生まれてからじゃ
遅いんだよ？ヤクザの子として
なんか生まれて欲しくない」

蒼平「んだと！？」

振り返り、涼花に
詰め寄る蒼平。

涼花「何よ！？殴りたきゃ

殴れば！？」

身体を震わせる涼花。

蒼　平「・・・・」

涼　花「あたしがどんだけ心配
してるかわかる！？
いつまでこんな思い
させんのよ！！」

手近なモノを
手当たり次第に
モノを投げつける涼花。

蒼　平「おい、よせって！」

涼　花「うるさいっ！」

暴れる涼花。

突然、その動きを止める。

涼　花「痛いっ！！」

蒼　平「！？」

苦痛に顔を歪め蹲る涼花。

蒼　平「おい！涼花！？」

涼花の肩を抱く蒼平。

蒼　平「！？」

スカートが血で滲む。

S36　○○病院前　＊現在

龍　二「・・・・」

蒼　平「俺は俺の夢の為に
涼花たちを犠牲に
しちまったんです。
これで俺が止めちまったら
・・・・」

龍　二「・・・・」

クラクションが響く。

蒼平　龍二「？」

ワゴンがベンツの
横に並ぶ。
警戒しながら
窓を開ける蒼平。
ワゴンも運転席の
窓が開く。

蒼　平「あんたが犬山か？」

情報屋「ああ、犬山　猫だ」
笑顔を見せる男
＝犬山　猫。
ジッと蒼平と
龍二を見つめる。
蒼　平「どうした？」
犬　山「ん？あれ、赤城のダンナは？」
蒼　平「病院の中だ。今、俺らに
構ってらんなくてよ」
犬　山「そうか。じゃあ乗んなよ」

S37　走るワゴン　車内

口笛を吹きながら
ハンドルを握る犬山。
犬　山「赤城のダンナの紹介とはいえ、
こんな時間だ。深夜料金
弾むぜえ」
蒼　平「・・・・心配すんな」
犬　山「で、千葉のどこへ

行きゃいいんだ？」

蒼　平「鴨川へ行ってくれ」

龍　二「アクアラインを木更津で
降りたら下道に出てくれ」

犬　山「鴨川？下道？こりゃ
掛かるぜえ」

信号が赤になり、犬山が
ブレーキを踏む。

犬　山「（目的地の）住所くれよ」

龍　二「鴨川市〇〇1ー42ー7」

言われた通り、
住所を打ち込む犬山。

犬　山「よしと」

信号が青になる。

S38　アクアライン　＊時間経過

＊音楽ベース
走るワゴン。

S39　ワゴン　車内

カーナビ画面に
鴨川までのルートが
示されている。
目的地までの時間は
2時間55分。
運転しながらスマホを
いじる犬山。
後部座席の蒼平が
隣に目をやると
龍二は目を瞑り
休んでいる。

蒼　平「・・・・」

×　×　×

蒼　平「ちゃんと生まれてたら
言おうと思っててて」

龍　二「この世界から足洗うのをか？」

×

×

×

蒼　平「・・・・」

S40　マンション　一室＊回想

ドアが開き、傷だらけの
蒼平がよろよろと
入ってくる。

涼　花「蒼平！？」

涼花が奥から駆け寄る。

涼　花「ちょっと大丈夫！？」

蒼　平「へっ。大した事ねえよ」

膝から崩れ落ちる蒼平。

S41　同　寝室　＊回想続き

ベッドの上、
目を覚ます蒼平。

涼花がジッと
見つめている。

蒼　平「・・・・よお」
身体を起こす蒼平。

涼　花「・・・・」
涼花の目に涙が
溜まっていく。

蒼　平「？おい」
蒼平の身体を
何度も叩く涼花。

蒼　平「おい、痛えよ」
何度も何度も叩く。

涼　花「何度目よ？こんな事」

蒼　平「・・・・」

涼　花「アタシ、蒼平が
いなくなったらなんて
絶対耐えられない」

蒼　平「！」

涼　花「アタシ達、
親無し同士で・・・・初めて

家族が出来るんだよ？」

自分のお腹に

手をやる涼花。

蒼　平「！」

涼　花「お願いだから、もうやめて」

蒼　平「・・・・」

涼花をギュッと

抱き締める蒼平

S42　木更津金田IC出口＊現在

ワゴンが国道16号に

入る。

＊音楽ベース終わり

S43　走るワゴン　車内

蒼　平「なあ。今更だけどよ、

あんたら何モンなんだ？」

犬山「なんだ、聞いてねえのか？」
前を見たまま答える犬山。
蒼平「あの男とは、
短い付き合いでな」
犬山「まあ、俺は平たく言やあ
何でも屋だ。で、赤城の
ダンナは実業家ってとこでー」
龍二「恐喝（ゆす）り屋だろ？」
蒼平「え？」
いつの間にか龍二が
目を開けている。
犬山「なんでえ。知ってんじゃんか」
蒼平「兄貴、何で知ってんすか？」
龍二「さっき思い出した。
あいつは元河内組の組員だ。
あそこを辞めて、羽振りのいい
恐喝屋がいるって2年前、
噂になってな」
蒼平「へえ」
龍二「あいつは今の業界を

取り巻く状況に嫌気が差して
見切りつけたんだな」

蒼　平「・・・・子供の為だけじゃ
ないって事すね」

犬　山「ダンナのガキの事
知ってんの？」

蒼　平「病気なんだろ？」

犬　山「気の毒なんだよ、あの人。
せっかく足洗ってガキと
2人3脚で生きてこうって
決めた途端、ガキが病気に
なっちまってさ」

蒼　平「・・・・」

龍　二「・・・・」

犬山がルームミラーの
中の蒼平と龍二に
目をやる。

龍　二「俺らが気になるか？」

犬　山「は？」

蒼　平「？」

ルームミラーの中で
見合う龍二と犬山。

犬山「いやあ、あんたらは
菱崎會だろ？桐生組？」

蒼平「あ？」

犬山「バッジ」

胸元のバッジに
目をやる蒼平。
瞬時に警戒する。

蒼平「だったらどうした？」

犬山「おいおい凄むなよ。
俺はあんたらに
協力してんだからさ」

蒼平「・・・・」

犬山「いやあ、お宅らの
組長大変だよなあ、って
同情してたんだよ」

蒼平「？どういう意味だ？」

犬山「あれ、身内のあんたらが
知らねえの？」

蒼　平「教えろよ」

鼻を鳴らす犬山。

犬　山「もう分かんだろ？

俺はあんたらの世界に

足突っ込んで生きてんだ。

そっちが知らねえ情報を

喋るって事はさー」

言葉を遮る様に、

財布からなけなしの

万札を数枚出し、

差し出す蒼平。

犬山が顔を輝かせ、

札を受け取る。

犬山「お宅んとこの組長、

菱崎會理事長の座、

降ろされそうなんだってさ」

蒼　平「え？」

龍　二「・・・・」

蒼　平「なんでオヤジが外されんだ？」

犬　山「上納金の支払いが長い事、

滞ってるそうだ。それで
本部（うえ）が
おかんむりなんだとよ」

蒼　平「・・・・」

龍　二「・・・・」

犬　山「ま、暴排条例のお陰で
ヤクザが稼げねなく
なっちまったこのご時世だ。
同情はするが、他所の理事たち
はなんとかキッチリ収めてる
っていうからいい訳
出来ねえよなあ」

蒼　平「・・・・」

犬　山「今から言う事は、
俺の意見じゃねえからな」

蒼　平「？」

犬　山「今まで武闘派で
鳴らした昔気質の桐生組は
シノギ（商売）が下手すぎる、
ってのが業界の陰での

通例なんだとよ」

蒼　平「・・・・」

龍　二「・・・・」

犬　山「おっと」

犬山がハンドルを
左に切ると、
ポツンと佇む
コンビニが見える。

犬　山「トイレ。ついでに
何か食うか？買ってきてやるよ」

S44　コンビニ駐車場

停車したワゴンから
犬山が降り、小走りで
コンビニに入っていく。

蒼　平「夜明けまでには着けそうすね」

コンパネの時計は
午前0時30分。

龍　二「ああ」

蒼　平「桐生がタタキを
　　やったのって・・・・」
龍　二「上納金を稼ぐ為だな」
　　歯軋りする蒼平。
蒼　平「あの野郎、ぜってえ
　　殺ってやる」
龍　二「その後、何すっか？」
蒼　平「え？そりゃあ、
　　兄貴と・・・・」
龍　二「どこまでだ？」
蒼　平「え？」
龍　二「どこまで行きゃあ
　　満足できんだろうな？」
蒼　平「そ、それは・・・・」
　　口詰まる蒼平。
蒼　平「！兄貴！やっぱ足洗うなんて
　　言うんじゃないでしょうね！？」
　　ため息を吐く龍二。
龍　二「しつけえな。洗わねえって
　　言ったろ？」

蒼　平「すみません・・・・」

コンビニ店内に

目をやる蒼平。

蒼　平「くそっ。あいつ遅えなー？」

エンジン音が遠くから

微かに聞こえる。

蒼　平「兄貴！？」

龍　二「行くぞ」

ダッシュボードを

開ける蒼平。

S45　コンビニ店内

若い男性店員が暇そうに

スマホをいじっている。

自動ドアが開き、

龍二に肩を貸した

蒼平が入ってくる。

龍　二「死にたくなきゃ

電気消して隠れてろ！」

店　員「え？」

タウルスを店員に
向ける蒼平。

蒼　平「聞こえたろ？
隠れてろ、って言ってんだ！！」

店　員「は、はい！」

蒼　平「サツ呼んだら殺すぞ！」

大きく頷くと
バックヤードに
逃げ込む店員。
龍二が自動ドアの脇、
壁面に設置された
管理用スイッチを
ＯＦＦする。
入口から見て奥に向け
何列かある商品棚。
その真ん中の棚陰の
一番右奥に身を潜める
蒼平と龍二。
店内の電気が全て消える。

蒼　平「くそっ、なんでだよ！？」
弾薬の箱を床に置く蒼平。
龍　二「トイレ行ったあの野郎
しかいねえだろ」
蒼　平「！」
店内を見回し、
トイレに目をやる蒼平。
蒼　平「野郎！でもなんで
俺らの事を？」
龍　二「わかんだろ？
あいつは情報屋だ。
あいつだけじゃなく、
似たような連中に桐生が
懸賞金ちらつかせてんだろう」
蒼　平「！（息を呑む）」
ヘッドライトの灯りが
大きな窓ガラスから
差し込む。
暗がりの中、外に目を
凝らすと停車した

リムジンから次々と
人影が降りてくる。

蒼　平「！」

ツナギたちの中に、
煙草に火を点ける
鹿賀の姿を捉える
蒼平と龍二。

蒼　平「くそっ」

息を呑む蒼平。
龍二が咳き込む。

蒼　平「兄貴、大丈夫ですか？」

脇腹を押さえ、薄ら笑い
を浮かべると、
腹に挿したタウルスを
抜く龍二。

龍　二「（蒼平に）撃てるか？」

蒼　平「（息を呑み）やりますよ」

蒼平の手は大きく
震えている。

龍　二「・・・・」

棚に陳列されたタオル
などを床に撒き散らす
龍二。

蒼　平「？」

不思議そうに見る
蒼平を無視して
Ｚｉｐｐｏライターを
取り出す。

×　×　×

『ガシャーン！！』
激しい音と共に
自動ドアが破られる。
３人のツナギが店内に
足を踏み入れる。

ツナギ③「どこだオラあっ！」
ツナギ④「逃げらんねえぞおっ！！」
焦げ臭い匂いに顔を
しかめるツナギたち。

ツナギたち「？」

視線の先、赤い炎が
揺らめいている。
炎の真上、天井の
スプリンクラーから
勢いよく水が噴出する。

ツナギたち「！？」

視界を遮られる
ツナギたち。
轟音が響く。

ツナギたち「うおっ！！」

身を伏せるツナギたち。

×　×　×

蒼　平「はあ、はあ・・・・」

タウルスを構えた蒼平が
身震いする。

龍　二「大丈夫か？」

蒼　平「・・・・はい」

龍　二「当てなくていい。
　とにかく撃ちまくれ」
蒼　平「はい」
龍　二「けど、無駄撃ちはすんなよ」
蒼　平「・・・・難しいっすね」

×　×　×

セダンに背中を預け、
煙を吸っていた
鹿賀が目を張る。
鹿　賀「なにしてやがんだ」
　ガラケーを取り出す鹿賀。
鹿　賀「オヤジ。鹿賀です」

×　×　×

ツナギ③「撃て！撃て！！」
　リボルバーを握った手を
棚陰から出し、闇雲に

撃つびしょ濡れの
ツナギたち。

×　×　×

闇雲に撃つ蒼平。
その隣で龍二が
狙いを定め、
引き金を引く。

×　×　×

轟音。

ツナギ④「つあっ！」

ツナギ④のリボルバーが
弾け飛ぶ。

ツナギ④「クッソがあっ！」

ツナギ④が懐から
ナイフを取り出す。

ツナギ④「（声を潜め）挟み込むぞ！」

蒼平たちの元へと
駆ける④。
残った③、⑤が囮に
なる様に撃ちまくる。

×　×　×

向こうの状況に気付かず、
③、⑤に向け、
撃ちまくる蒼平、龍二。

蒼　平「弾無くなっちまいますよ！」
龍　二「わかってるよ！！！」

×　×　×

蒼平たちの背後を
とる様に④が静かに
近づいてくる。

×　×　×

タウルスがスライド
ロックする。
マガジンを抜く蒼平。

蒼　平「兄貴！撃ってください！！」
隣を見ると龍二の
姿がない。

蒼　平「！？」

×　×　×

棚陰から顔を覗かせる
ツナギ④。
視線の先、マガジン
交換する蒼平の後ろ姿。
銃口を蒼平に向ける
ツナギ④。
と、頭上の棚が
④目掛けて
倒れ込んでくる。

ツナギ④「！？」

×　×　×

ツナギ④の悲鳴があがる。

蒼　平「（振り返り）！？」

棚に押し潰されたツナギ

④に弾丸を撃ちこむ龍二。

蒼　平「兄貴！」

龍二はスライドロック

したタウルスを腹に挿し、

④の手からナイフを

奪うと駆け出す。

×　×　×

棚から何かを手に取る

龍二の手元。

×　×　×

顔を見合わせる
ツナギ③、⑤。
ツナギ③「見てこい！」
⑤が音のした方へ
駆け出し、③の視界から
姿を消す。

×　×　×

暗がりから突然、
⑤の目の前に殺虫剤の
缶が突き出される。
ツナギ⑤「？」
ノズルから⑤の目元を
目掛けて薬品が
噴霧される。
ツナギ⑤「うぎゃあああっ！！」
両目を押さえ、暴れる⑤。

×　×　×

ツナギ③「？」

⑤が向かった方へ
目をやる③。
だが、（蒼平の）弾丸が
脇を掠め、咄嗟に
身を屈める。

×　×　×

絶叫を耳にし、怪訝な
表情を浮かべる鹿賀。

鹿　賀「？」

×　×　×

龍二が⑤の口を押え、
足払いをし、仰向けに
倒す。

ツナギ⑤「！！」

龍二が⑤に馬乗りになる。

ナイフで⑤の首を横に

薙ぎ払う。

×　×　×

ツナギ③「おい！どうした！？」

『バン！』

③の掌が撃ち抜かれる。

ツナギ③「ぐあっ！」

リボルバーを落とし、

膝をつく③。

×　×　×

龍二の声「蒼平！」

蒼　平「！？」

棚陰から身を乗り出すと

龍二がツナギ③に

リボルバーを
突きつけている。

×　×　×

慌ててリムジンの
運転席を開ける鹿賀。

蒼　平「動くな！」

背中にタウルスを
向けられた鹿賀が
舌打ちをし、
両手を上げる。

×　×　×

蒼　平「兄貴！」

鹿賀を前に歩かせた
蒼平が店内の龍二の元へ
やってくる。
龍二の前には膝まづき、

両手を頭の後ろに回した
ツナギ③がいる。

蒼　平「膝つけよ」

鹿　賀「てめえっ若造！
誰に口きいてー」
鹿賀の膝裏を蹴り、
強引に跪かせる蒼平。

鹿賀「くそがっ！」
トイレで物音がする。
顔を見合わせる
蒼平と龍二。

蒼　平「！あの野郎、
ぶっ殺してやる！！」

龍　二「殺すな」

蒼　平「え？」

龍　二「こっちに連れてこい」

蒼　平「・・・・はい」

×　×　×

トイレのドアを激しく
蹴る蒼平。
犬山の声「や、やめてくれええっ！」
蒼　平「出ろ！」

×　×　×

犬山の背中にタウルスを
突きつけた
蒼平が戻ってくると
鹿賀たちの隣に
同じ態勢で座らせる。
鹿　賀「・・・・さすがだな。
けどな、誤解なんだ」
ヘツラ笑う鹿賀。
龍　二「・・・・」
ツナギ③の眉間に
リボルバーの
銃口を向ける龍二。
ツナギ③「？お、おい」

迷いもなく引き金を引く。
轟音と共にツナギ③の
頭が爆ぜる。

蒼　平「！」

鹿　賀「！！」

犬　山「ひいっ！！！」

銃口が今度は犬山に
向けられる。

犬　山「ま、待ってくれ！
お、俺は仕事をしただけだ！
懸賞金の掛かったあんたらの
事聞いた途端、まさか
会えるなんて僥倖、なかなか
ねえだろ！？」

蒼　平「僥倖？」

頭を捻る蒼平。

犬　山「金になる情報があれば売る、
それが俺の仕事だ！
分かんだろ！？
仕事なんだからさあ！！」

リボルバーが再び
火を噴き、犬山が
後頭部から血と脳漿を
噴き出し仰向けに倒れる。

鹿　賀「！！」

蒼ざめる鹿賀。
蒼平は逸る鼓動を
押さえる様に
胸を押さえる。

×　×　×

バックヤードから店員が
恐る恐る出てくる。

店　員「！」

目の前の凄惨な光景に
呆然とする店員。
エンジン音が聞こえ、
目をやるとワゴンが
向こうへ消えていく。

慌ててスマホを
取り出す店員。

S46　走るワゴン　車内

鴨川へのルートが表示
されているカーナビ画面。
仏頂面でハンドルを
握る鹿賀。

蒼　平「おい」

助手席の蒼平をギロりと
睨む鹿賀。

鹿　賀「てめえ、惚けたのか？
俺の立場をー」

蒼　平「（遮り）もうアンタを
頭とは呼ばねえ」

鹿　賀「んだと、このガキー！！」

鹿賀の背後、シートの
背中部分にリボルバーの
銃口が突きつけられる。

押し黙る鹿賀。

蒼　平「桐生の命令なんだろ？」

鹿　賀「てめえ、オヤジを

そんな呼び方

しやがって・・・・」

蒼　平「あいつは梶本（組）と組んで

三好の叔父貴のシノギを叩いた。

で、それに気づいた叔父貴は

殺された」

鹿　賀「ほう。わかってんじゃねえか」

龍二が銃口を更に

押し付ける。

龍　二「なんで身内を叩いた？」

鹿　賀「・・・・オヤジが

理事長の座を外されんだよ」

蒼　平「・・・・」

龍　二「・・・・」

鹿　賀「上納金が何か月も滞ってる。

上はお冠でよ」

蒼　平「・・・・」

龍　二「・・・・」

鹿　賀「理事長の座を降ろされんのは
オヤジのプライドが
許さねえんだ。
だから、自分の後釜に
座りそうな三好を叩いた」

龍　二「戸口の叔父貴も叩こうと
したんじゃねえか？」

鹿　賀「！」

龍　二「だが、しくじった」

鹿　賀「・・・・」

蒼　平「身内叩いていいわけ
ねえだろ！？しかも敵対してる
組と仲良しになるなんてよお」

鹿　賀「てめえらがもっと稼いでりゃ
オヤジもこんなバカは
してねえ！」

龍　二「・・・・」

蒼　平「・・・・」

鹿　賀「オヤジが外されんのは

もう1つ」

蒼　平「？」

龍　二「？」

鹿　賀「お前らが梶本、襲って
向こうの機嫌を
損ねちまったからだ」

蒼　平「なんだよ、それ？」

鹿　賀「関西の今川會知ってんだろ？」

蒼　平「もちろん」

鹿　賀「じゃあ、奴らが関東（こっち）
に進出しようとしてんのは
知ってるか？」

蒼　平「ああ」

鹿　賀「知っての通り、
今川會てのはデケエ組織だ。
まともにぶつかっても
勝ち目はねえ。
まあ、これからの時代、
抗争しようもんならすぐサツに
介入されちまうから、んな事

とても出来ねえがな」

蒼　平「・・・・」

龍　二「・・・・」

鹿　賀「じゃあ、抗争以外で
張り合えるか？といっても、
とても無理だ。奴らの資金力、
ネットワークはとてつもねえ。
限りなく白に近いグレーで
大儲けな商売出来ててよ。
うちらとは桁違いだ」

蒼　平「・・・・」

龍　二「・・・・」

鹿　賀「本部としちゃ、向こうとは
険悪にならず持ちつ持たれつの
関係になりてえ。
そこで最近、今川會に早えトコ
ケツ振った梶本（組）に間に
入って貰う話になってたんだ」

蒼　平「梶本はずっと俺らと
敵対してきただろうが？」

鹿賀「ヤクザに厳しいこの世で
生き残る為にゃそうする
しかねえんだよ」

蒼平「・・・・」

鹿賀「本部に言われて最初に
梶本に話持ってったのは
当然、現理事長のオヤジだ。
だが、オヤジには今川會の事
以上に個人的な悩み事があった」

龍二「上納金の遅れ」

頷く鹿賀。

蒼平「・・・・」

鹿賀「そこでオヤジは自分の悩みを
解決しながら向こうに甘い汁を
与える事を思いついた」

蒼平「それがタタキってわけか」

鹿賀「（笑って）当然タタキの件は
親父と梶本の秘密だ。
だが、お前らが梶本に
手え出したお陰でその関係に

亀裂が入った」

蒼　平「・・・・」

龍　二「・・・・」

鹿　賀「梶本もまさか、自分らが
タタキに噛んでるとは
騒げねえ。だからオヤジに
有りもしねえ難癖付けて
今川との間に入んのを
ゴネだしたんだ」

蒼　平「・・・・」

龍　二「・・・・」

鹿　賀「オヤジの理事降格は決定だ。
お前らを許す訳ねえだろ？
だからオヤジと俺で秘密裏に
動いてんだよ」

蒼　平「・・・・」

龍　二「・・・・」

鹿　賀「お前らに逃げ場はねえんだ。
フリーの連中を沢山
雇ってるからよ」

×　×　×

ツナギの面々。

×　×　×

蒼　平「！」

鹿　賀「龍二がさっき殺った男から
きた情報は他の連中にも
いってる。今頃、アクアライン
かっ飛ばして、こっちに
向かってるぜ」

龍　二「・・・・」

蒼　平「（息を呑む）」

カーナビ画面に
目をやる鹿賀。

鹿　賀「ところで鴨川なんかに
何があんだ？どこへ隠れても
無駄だぞ？」

蒼　平「あ？隠れるんじゃねえ」
鹿　賀「あ？」
蒼　平「桐生の別荘があんだろ？」
鹿　賀「別荘だあ？」

龍二がリボルバーの
銃口を鹿賀の後頭部に
当てる。

鹿　賀「！！」
龍　二「桐生が死んだら
跡目はお前になるな」
鹿　賀「？」
蒼　平「兄貴？」
龍　二「お前は頭（かしら）で
終わりてえのか？」
鹿　賀「！」
龍　二「前によく言ってたよな？
俺の方があの男より
上手く商売出来るってよ」
鹿　賀「・・・」
龍　二「お前は俺らのやる事、

関知せず見てりゃ組を
自分のモンにできんだぜ？」

蒼　平「兄貴、何言ってー」

龍　二「黙ってろ！」

蒼　平「！」

固まる蒼平。

龍　二「鹿賀よ。そうだろ？」

鹿　賀「（息を呑む）」

龍　二「俺らが桐生を殺るのは
お前にとって都合のいい
話の筈だ」

ルームミラーの中の
龍二に目をやる鹿賀。

鹿　賀「・・・・本気か？」

龍　二「ああ」

鹿　賀「・・・・けどよお、
てめえのオヤジ殺ったら
どうなるかわかってんだろ？」

龍　二「だからお前がなんとかしろ」

鹿　賀「ああ？」

龍二「組をてめえのモンにしたら
三好の叔父貴殺しが俺らの
仕業じゃないと皆に説明しろ」
鹿賀「・・・・」
龍二「他に殺って欲しい野郎が
いれば、ついでに
殺ってやるからよ」
鹿賀「？」
蒼平「？」
龍二「いい話だろ？」
鹿賀「・・・・マジかお前」
龍二「（笑って）大マジだ」
やがて鹿賀が
大きく息を吐く。
鹿賀「・・・・戸川組の戸川。
三好が消えた今、オヤジの
代わりに理事長の座に
据わんのはあいつだ。
俺より若えクセしてよお、
ふざけやがって。

会長も大馬鹿だぜ。
あのジジイ、惚けちまって
人間見る目がなっちゃいねえ」

龍二「・・・・」

鹿賀「俺が理事長の座に収まりゃ
今まで以上に菱崎會を
盛り上げる事が出来んだ。
オヤジは今の時世に
ついてこうと必死だが、
所詮はお前と同じタイプの男だ。
暴力での解決しかして
こなかった野郎に居場所は
ねえんだよ」

蒼平「・・・・」

龍二「わかった。約束は守れよ」

鹿賀「・・・・ああ。交渉成立だ」

銃を下ろす龍二。
大きく息を吐く鹿賀。

龍二「止めろ」

鹿賀「？」

蒼　平「？」

龍　二「蒼平。喉が渇いた。
なんか買ってきてくれ」

S47　コンビニ前

ワゴンが停車し、
蒼平が降りると
店内へ駆け込む。
それを見送ると
鹿賀に目をやる龍二。

龍　二「おい」

鹿　賀「あ？」

S48　同　＊時間経過

コンビニ袋を提げた
蒼平が戻ってくる。

蒼　平「戻りました。―？」

運転席に鹿賀の姿は無い。

蒼　平「？兄貴、あいつは！？」

龍　二「今、あいつに用はねえ。
だから追い出した」

蒼　平「？大丈夫なんすか？」

龍　二「聞いてたろ？あいつは
俺らの邪魔はしねえ」

蒼　平「けど・・・・」

龍　二「行くぞ」

蒼　平「・・・・」

S49　海沿いの道　＊時間経過

空が白み始める中、
ワゴンが海沿いの道を
走る。
ふと顔を上げる龍二。
鈍い雲が空を覆っている。

龍　二「龍神雲、見えねえなあ」

蒼　平「え？」

蒼平も空を見上げる。

龍　二「ごふっ！」

蒼　平「！」

ワゴンが急停車する。

S50　走るワゴン　車内

蒼　平「！？兄貴！」

運転席の蒼平が

振り返ると龍二が吐血し、

咽いでいる。

蒼　平「兄貴！？兄貴！！」

龍　二「大丈夫だ・・・・」

窓外に目をやる龍二。

龍　二「蒼平」

蒼　平「？」

龍　二「今まで楽しかったなあ」

蒼　平「なんすか、急に？」

海を見つめる龍二。

S51　海（回想）

ビーチベッドに寝そべり
缶ビールを呷る
蒼平と龍二。
目の前は人ひとり
いない海。

龍　二「蒼平」
蒼　平「はい」
龍　二「なんで海なんだよ？」
蒼　平「俺の行きたいトコ付き合う
　って言ってくれたじゃないすか」
龍　二「にしたって、夏はとっくに
　終わってんだぞ？」
蒼　平「いいじゃないすか」
龍　二「（ため息）」
蒼　平「俺、ガキの頃海水浴とか
　来た事ないから嬉しいっすよ」
龍　二「・・・・」
蒼　平「兄貴は小さいとき、
　どんな子だったんすか？」

龍　二「なんだよ急に？」

蒼　平「聞きたいんすよ」

龍　二「・・・お前と一緒だよ」

蒼　平「え？」

龍　二「親がどんな顔して、どんな
　　人間なのか知らねえんだ」

蒼　平「・・・兄貴は今でも
　　恨んでんすか？」

龍　二「お前は？」

蒼　平「俺は恨んでます」

龍　二「この世で一番なりたくねえ
　　人間の事なんか忘れちまえ」

蒼　平「・・・」

涼　花「ちょっと！少しは手伝ってよ」

　　涼花が少し離れた場所に
　　設置したＢＢＱセットで
　　肉や野菜を焼いている。

龍　二「お前は１人じゃ
　　ねえんだからよ」

蒼　平「・・・そうっすね」

龍　二「そんでもって、この世界で
てっぺん獲る俺に付き合え」
蒼　平「（笑って）はい」
身体を起こす蒼平と龍二。
涼花の元へ行くと
一緒に肉を焼き出す。
×　×　×
肉を頬張り、ビールを
呑む蒼平、涼花、龍二。
3人共に笑顔。
S52　モンタージュ＊回想音楽ベース
他所の組員と揉める
龍二と蒼平が大暴れ。
×　×　×

繁華街。
お酒を酌み交わす
龍二と蒼平。

×　×　×

雑居ビルの屋上。
夜空を眺めながら
煙草を吹かす龍二、蒼平。

S53　走るワゴン車内　＊現在

龍　二「お前とは色んなトコで暴れて、
美味いモン食って飲んでよお」
蒼　平「・・・・」
龍　二「覚えてるか？初めてお前と
会った時を」
蒼　平「やめてくださいよ」
龍　二「酔っぱらって、荒れ切った
お前が俺に絡んできてよお」

蒼　平「兄貴にボコボコにされた事
以外、覚えてねえっすよ」

S54　繁華街（回想）

鼻口から血を溢れさせ、
大の字に倒れている蒼平。

蒼　平「・・・・く、くそが・・・・」
ハンカチで拳を
拭いながら蒼平を
見下ろす龍二。

龍　二「弱えんだから、相手見て
喧嘩売れよ？」

蒼　平「けっ」
龍二に向け、唾を
吐き上げる蒼平。

龍　二「・・・・」

蒼　平「ムカついたか？殺せよ（笑）」

龍　二「素人でよかったな」

蒼　平「なにっ！？」

起き上がろうとする
蒼平を無視し、
去って行く龍二。
女の声『ちょっと、なにすんだよ！』
龍　二「？」
振り返る龍二の視線の先、
涼花が2人の男に
絡まれている。
男　①「いいじゃねえか、
遊び行こうぜ」
涼花の腕を取る男①。
涼　花「離せよっ」
男①の頬を張る涼花。
男　①「！てめえっ」
涼花の髪の毛を
鷲掴みにする男①。
涼花が男①の股間を
蹴り上げる。
男　②「こらあっ！」
男②に横腹を蹴られ、

吹っ飛ぶ涼花。

龍　二「・・・・」

騒ぎに向かい、

歩を進める龍二。

龍　二「？」

足を止めた龍二の目の前、

蒼平がヨロヨロ

立ち上がると騒ぎの方へ

向かっていき、いきなり

男②を殴り飛ばす。

涼　花「！？」

驚く涼花の目の前、

今度は男①を殴りつける。

男　②「何すんだ、コラあっ！」

蒼　平「うるせえっ！

女殴ってんじゃねえ！

ぶっ殺すぞ！！」

涼　花「・・・・」

2対1で乱闘する蒼平。

やがて、蒼平が

劣勢になり一方的に
殴られる。
男②の蹴りを胸に
食らって吹っ飛ぶ蒼平。
その身体を受け止める
龍二。

蒼　平「！？」

龍　二「ほんと弱えな」

蒼　平「なに！？」

男①②が龍二を見て
直立する。

男　①「か、神室さん！？」

男　②「！」

蒼平を涼花の方に
押し出すと男たちに
歩を進める龍二。

男たち「し、知り合いすか？・・・・」

有無をいわさず男たちを
瞬殺する龍二。

蒼　平「！」

思わず見惚れる蒼平。
龍二は何事も無かった
様にその場を去る。

蒼　平「ま、待て！」

起き上がろうとするが
身体が痛み、
起き上がれない。

涼　花「ちょっと、動かない方が
いいよ」

蒼　平「くっ」

涼　花「あの」

蒼　平「？」

涼　花「ありがとう」

蒼　平「え？い、いいって」

照れる蒼平。
夜の街へ消えていく
龍二の背中をその目で
ずっと追う。

×　×　×

数日後。
歩く龍二。
その前に蒼平が現れる。

龍　二「よお、弱っちーの」

蒼　平「・・・・」

龍　二「なんだ？リベンジ
挑みに来たのか？」
口の端で笑う龍二。
蒼平が両膝を地面につき
頭を下げる。

龍　二「？」

蒼　平「俺は・・・・俺はあんた
みたいになりてえ！」

龍　二「はあ？」

蒼　平「俺をあんたの傍に
おいてください！」

龍　二「やめとけ」
蒼平の脇を抜け、
歩き去る龍二。

蒼　平「お願いします！」

背後から龍二の身体に

しがみつく蒼平。

龍　二「ちょ、コラっ！

てめえなんか無理だって

言ってんだ！」

蒼　平「頼みますよ！

あんたに惚れたんすよ！！

お願いですから！！！」

道行く人々が

2人に注目している。

龍　二「バカかてめえっ！

誤解されちまうだろうが！」

蒼　平「あんたみたいな男に

なりたいんです！」

揉みくちゃになる2人。

S55　ワゴン　車内　＊現在

笑う龍二。

龍　二「彼女を助けた事も
覚えてんだろ？」
蒼　平「まあ・・・・」
龍　二「ありゃあ、いい子だ。
お前にはもったいねえ」
蒼　平「・・・・兄貴、
何が言いたいんすか？」
再び吐血する龍二。
蒼　平「兄貴！」
ワゴンを停める蒼平。
蒼　平「傷が悪化したんすよ、
やっぱ病院に行かないと！
オヤジは俺が殺りますから」
龍　二「・・・・そうだな。
ここまでだな」
蒼　平「病院調べますから！」
カーナビを
操作しようとする蒼平。
龍　二「ここで降ろせ」
蒼　平「え？」

龍　二「自力で行く」

蒼　平「ダメっすよ！俺がー」

龍　二「まごついてる暇はねえって
言ったろ？」

蒼　平「でも・・・・」

（東の）スマホを取り出し、
蒼平に差し出す龍二。

龍　二「これ、お前が持っとけ」

蒼　平「・・・・」

スマホを受け取る蒼平。
ワゴンから降りる龍二。
運転席の窓を
開けた蒼平と見合う。

龍　二「なあ」

蒼　平「はい？」

龍　二「向こう着いて、
やる事やったら遠くへ行け」

蒼　平「？」

龍　二「そして、今の世界から足を
洗うって約束してくれ」

蒼　平「！俺はー」

震えている蒼平の

手を掴む龍二。

蒼　平「！」

龍　二「もう十分なんじゃねえのか？」

蒼　平「！！」

龍　二「お前はまだ引き返せる」

蒼　平「俺はこの世界で兄貴と

天下獲りたくて・・・・

けど、これじゃあ兄貴も俺も

何にも手に入れてない

じゃないすか！」

龍　二「俺はもう手に入れてるよ」

蒼　平「？」

見合う2人。

蒼　平「・・・・」

龍　二「（笑って）あの子と

幸せになれ」

蒼　平「・・・・」

龍二が自分の首に

掛けたベルサーチの
ゴールドネックレスを
外す。

龍　二「ＧＰＳは
付いてねえがな（笑）」

蒼　平「・・・・なんか一生の
お別れみたいじゃないすか」

龍　二「（笑って）バカ野郎。
すぐに会える」

蒼　平「・・・・」
ネックレスを受け取り、
クビに掛ける蒼平。

龍　二「（笑って）じゃあ、
全部任せたぜ」

蒼　平「？」
微笑む龍二。

龍　二「行け」

蒼　平「・・・・」
ワゴンを出発させる蒼平。

龍　二「・・・・」

見送ると踵を返し、
ヨロヨロ歩き出す龍二。
＊ワゴンと龍二が
正反対の方に向かい
離れていく。

S56　昇る朝陽　＊時間経過

S57　走るワゴン　車内

カーナビ画面。
目的地まであと
2kmとある。

蒼　平「兄貴、俺やりますから」
蒼平の全身が震えている。

S58　海沿いの道

＊以下、蒼平側と適宜カットバック

ヨロヨロ歩く龍二。
その前方から黒塗りの
リムジンがやってくる。

龍　二「・・・・」

×　×　×

カーナビ画面。
目的地まであと
５００ｍとある。
息を呑む蒼平。が、

蒼　平「？」

目の前は閑静な住宅街。

×　×　×

龍二の前で停車する
リムジン。
運転席と助手席から
黒スーツの男Ａ、Ｂが

降りる。
男Bが後部ドアを開ける。

×　×　×

カーナビの声「まもなく目的地
周辺です」

蒼　平「？」

フロントガラスの向こう、
『養護施設　芽吹きの家』
の看板を掲げた
建物が見える。

×　×　×

リムジンの後部座席から
鹿賀と組長の桐生が
降りてくる。

龍　二「・・・・」

×　×　×

ワゴンを停車させ、
降りる蒼平。
建物に向かい、
ゆっくり歩を進める。

蒼　平「・・・・どういう事だ？」

と、建物のドアが開く。

蒼　平「！」

身構える蒼平の目の前、
中年の女性＝河野　菜摘
が出てくる。

蒼　平「？」

×　×　×

鹿　賀「お望み通り、オヤジに
来て貰ったぜ」

龍　二「・・・・」

桐　生「顔色悪いぞ、龍二」

鹿賀と男A、Bを
従えた桐生と
対峙する龍二。

龍二「・・・・よお」

龍二の脇腹に
目をやる桐生。

桐生「その傷じゃ死なねえ」

龍二「・・・・」

桐生「て事は順調に病気が
進んじまってるようだな」

鹿賀「？」

龍二「・・・・」

桐生「鳴海はどこ行った？」

龍二「・・・・俺に愛想
尽かして消えちまったよ」

鼻で笑う桐生。

桐生「まあいい。あんな小僧、
いつでも消せるからな」

龍二「・・・・」

桐生「まあ、てめえは

放っといても死ぬが、
俺が直接手を下さなきゃ
気が済まねえんでな」

龍　二「梶本はウチと
敵対してたんだぜ」

桐　生「あ？」

龍　二「俺は長いこと、あんたの
為に働いてきたんだがな」

桐　生「・・・・てめえのせいで俺が
どんだけ被害被ったと
思ってんだ」

龍　二「腑抜けたな・・・・オヤジ」

桐　生「！！腑抜けたんじゃねえ！
時流に乗ってんだ！
舐めた言い草
かましてんじゃねえぞ！！」

龍　二「・・・・」

桐　生「てめえみてえな時代遅れの
居場所はもうねえんだ」

龍　二「あんたもだろ（笑）」

桐　生「！」

傍らの男たちを
見やる桐生。
男A、Bが桐生の
左右に並ぶ様に
前へ出ると、
懐からリボルバーを出す。

龍　二「・・・・」

銃口を龍二に向ける
男A、B。

×　×　×

河野と門越しに
対峙する蒼平。

河　野「あの、岡崎さんで
らっしゃいます？」

蒼　平「え？」

河　野「そのネックレス」
と、自分の胸元に

指をやる河野。

蒼　平「あ」

河　野「それが目印だって」

蒼　平「・・・・」

河　野「昨夜電話きたときは
ビックリしました。
朝までにはいらっしゃると
仰ってたんで待ってましたよ」

蒼　平「？」

×　×　×

（フラッシュ）
蒼平と涼花の
マンション近く。

蒼　平「行ってきます。
休んでてください」

龍　二「ああ。頼むわ」

出て行く蒼平。
ふと振り返ると、

龍二はスマホを
取り出している。

×　×　×

戸惑う蒼平。やがて、

蒼　平「えっと・・・・はい、
岡崎、岡崎龍二です」

少し安堵する河野。

河　野「ちょっとお待ちくださいね」

ドアの向こうへ
消える河野。

蒼　平「？」

×　×　×

男A、Bが龍二に
銃口を向ける。

龍　二「・・・・」

引き金に指を掛ける

男A、B。

『ドン！ドン！』

銃声と共に男A、Bが

前のめりに倒れる。

桐　生「！？」

振り返る桐生。

鹿賀がガバメントを

手にしている。

桐　生「鹿賀！？おめえ、何してんー」

『ドン！！ドン！！！』

銃弾を撃ち込まれ、

倒れる桐生。

龍二が手にした

リボルバーが

煙を上げている。

龍　二「・・・・」

×　　×　　×

再びドアが開き、
河野が戻ってくる。

蒼　平「？」

河野の傍らには、
可愛らしい
小さな女の子
＝石田　桃が。

蒼　平「！」

門扉を開ける河野。
桃を蒼平の傍へ促す。

河　野「ほら桃ちゃん、
あなたのお父さんよ」

蒼　平「！！」

怯えた目で蒼平を
見上げる桃。

桃　「・・・・」

×　×　×

龍　二「・・・・」

膝から崩れ落ちる龍二。
鹿賀がその傍らに
ハンカチで指紋を拭いた
ガバメントを置く。

鹿賀「病気だったのか。残念だ」
口の端に笑みを
浮かべる鹿賀。

龍二「行け」

鹿賀「（笑）ま。パクられねえ
ようにな」
去って行く鹿賀。
龍二は天を仰ぐ。
龍神雲は見えない。

龍二「・・・・よお、
出てきてくれよ」
ゆっくり目を閉じる龍二。

×　×　×

桃「・・・・」

蒼　平「・・・・」

×　×　×

龍　二「（笑って）じゃあ、
全部任せたぜ」

×　×　×

蒼　平「・・・・」

拳をギュッと握る蒼平。
俯き、大きく肩を
震わす。

S59　とある地方都市　工場　前（朝）

＊数か月後
『お疲れ様〜』。
次々と工員が出てくる。
その中に蒼平の姿が。

S60　道

カバンを提げ、歩く蒼平。
目の前に黒の
リムジンが停車する。

蒼　平「！」

リムジンの後部ドアの
窓が開き、
鹿賀が顔を出す。

鹿　賀「よお。探したぞ」

蒼　平「・・・・」

鹿　賀「龍二は無事死んだけどよ、
お前もオヤジ殺しの同罪だ。
見逃す訳にゃいかねえ」

助手席から降りた
黒スーツの男が
蒼平を威圧する様に
傍らに立つ。

鹿　賀「乗れ」

蒼　平「・・・・」

黒スーツの男が
ドアを開ける。
素直に乗り込み、
鹿賀の隣に座る蒼平。

鹿　賀「山ん中埋められんのと
海に沈められんの
どっちがいい？」

蒼　平「2人きりで話がしたいです」

鹿　賀「？命乞いすんの
見られたくねえってか？
まあ、お前は散々俺に
悪態ついたもんな」

蒼　平「頼みます、組長さん」

満足げに笑みを
浮かべる鹿賀。

鹿　賀「お前ら、降りろ」

運転席、助手席の
黒スーツがリムジンから
降りる。

蒼　平「オヤジを殺ったら
こっちの安全を保証
してくれる約束でしたよね？
で、兄貴はやり遂げました」

鹿　賀「（笑って）戸川。理事長に
なっちまったあいつを
殺ってねえだろが。ま、
お前らの手なんか使わなくても
いずれ、自分の手で
殺ってやるがよ」

蒼　平「・・・・」

鹿　賀「（笑）さあ、命乞い
してみやがれ」

ポケットから
（東の）スマホを
取り出す蒼平。

鹿　賀「？」

蒼　平「俺は、あんたにとって
爆弾なんだよ」

蒼平がスマホ画面を

操作する。

龍二の声「お前は頭（かしら）で
終わりてえのか？」

鹿　賀「！」

×　×　×

龍二の声「前に言ってたよな？
俺の方がオヤジより
上手く商売出来るってよ」

龍二の声「お前は俺らのやる事、
関知せず見てりゃ組を
乗っ取れるんだぜ？」

龍二の声「俺らがオヤジを殺るのは
お前にとって、都合の
いい話の筈だ」

鹿賀の声「まあな」

×　×　×

鹿　賀「てめえっ！」

蒼　平「・・・・」

×　×　×

龍二の声「それに、他に殺って
欲しい野郎がいれば
ついでに殺ってやるぜ？」

鹿賀の声「・・・・戸川組の戸川。
あいつを殺れ。オヤジの
代わりに理事長の座に
据わんだ。
俺より若えクセしてよお、
ふざけやがって。
会長も大馬鹿だぜ。
あのジジイは人間見る目が
出来ちゃいねえ。
お前が言ってくんなきゃ

てめえで殺りてえくらいだ」

×　×　×

鹿　賀「・・・・」

蒼　平「コピーを取ってある」

鹿　賀「！」

蒼　平「俺に何かあれば、
こいつがドカン、だ」

鹿　賀「くっ」

リムジンを降りる蒼平。
何事も無かった様に
歩いていく。

S61　団地　一室　＊回想

ボロボロのソファに
腰掛ける蒼平。
テーブルを挟んだ
向かいには腕や額に

包帯を巻いた信子が。

信　子「龍二の奴、逝っちまったかね」

寂しそうに煙草を吸う

信子。

蒼　平「兄貴は俺を・・・・

破滅に向かってた俺を

あの世界から遠ざけて

くれたんです」

信　子「あんたの事、自分の様に

したくなかったんだねえ」

蒼　平「・・・・」

信　子「あいつ1回、アタシの前で

泣いた事あんだよ」

蒼　平「兄貴が？」

信　子「1年前かね、前の嫁の友達

ってのがあいつに伝えたんだ。

別れた直後に娘が

生まれてた事を」

蒼　平「！」

×　×　×

女性と向かい合っている
龍二が見える。
やがてその顔が驚きに
包まれる。

×　×　×

信　子「それからは今までの
自分の人生を悔やむ様に
なってさ」

蒼　平「・・・・」

信　子「自分を捨てた親みたいにゃ
なりたくねえ、そうも
言ってたよ」

蒼　平「・・・・」

×　×　×

龍　二「この世で一番なりたくねえ
人間の事なんか忘れちまえ」

×　×　×

絵美里の墓前の龍二。

×　×　×

蒼　平「・・・・」

信　子「けど、悔やんだところで
もう遅かった。ウチの人と
一緒さ。それに癌で長くない
事もわかってる。
でも、このまま死ぬのは
耐えられないってね」

蒼　平「・・・・」

S62　アパート　表

蒼平がやってくる。

信子の声「あんたは託されたんだ。

頼んだよ」

ふと空を見上げる蒼平。

青い空に龍神雲が。

蒼　平「・・・・兄貴」

蒼平の目から涙が溢れる。

S63　同　一室

ドアが開き、蒼平が

顔を見せる。

涼花の声「お帰り～」

靴を脱ぎ、奥の部屋へ

向かう蒼平。

蒼　平「お。美味そう」

蒼平の目の前、

テーブルについた

涼花とー桃が。

2人とも蒼平に笑顔を

向けてくる。

涼　花「待ってたよ」

桃　　「早く食べよ。お父さん」

蒼　平「おお（笑）」

テーブルにつき、

楽しそうに朝食を摂る

家族３人。

（終）